

年報 第45集

平成26年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

はじめに

平成26年度は、重要な新規事業を始動させるなど、文化財保護課にとって新たな一歩を踏み出した年となりました。

まず、調査事業では、生糸の町として知られた本市の蚕糸業についての総合的な調査をスタートさせました。具体的には、田口町にある旧塩原蚕種の調査を契機として、今後、5年を目途に前橋の蚕糸業の実態を明らかにしていく所存です。

整備事業では、平成24度より進めていた重要文化財阿久沢家住宅の整備事業について、懸案だった屋根の全面葺き替え工事が実施されました。さらに、新総社資料館の建設に向けた用地の取得や資料館の設計などが始まりました。この過程で、旧総社資料館の旧本間酒造建物が所有者のご好意により前橋市に寄附されました。

活用事業では、大室公園の大室古墳群において、民家園の一部を利用した大室はにわ館が開館しました。大室の地に新たな文化財の拠点ができ、長年の懸案でもある大室資料館の実現に向けて一歩を踏み出すこととなりました。

一方、整備事業として予定していた、臨江閣別館の修復整備事業については1年間延期することになりました。これは、群馬県令掛取素彦を主役の一人としたNHK 大河ドラマ「花燃ゆ」が平成27年1月からスタートすることが決まり、前橋市を挙げて応援体制をつくるということから、掛けとゆかりが深い臨江閣に注目が集まることが予想されたための措置です。

埋蔵文化財関係では、蒼海地区の土地区画整備事業に係る発掘調査などを進めてきましたが、上野国府等範囲確認調査事業も4年目を迎え、核心部へと近づいています。

本報告書は、平成26年度に文化財保護課が行った各種の事業の概要をまとめたものであり、前橋市における文化財保護行政の全貌をうかがい知ることができます。

文化財保護課の諸事業を遂行するに当たり、ご指導、ご協力を賜った関係各位並びに諸機関に心より感謝申し上げると共に、前橋市の文化財保護行政を益々進展させるべく努めてまいり所存であります。

平成27年10月30日

前橋市教育委員会

教育長 佐藤 博之

目 次

はじめに

第1章 文化財調査委員による調査

1 建造物調査「都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」」	1
2 建造物調査「塩原蚕種」	1
3 樹木調査	1
4 建造物調査「市内建造物調査」	1
5 建造物調査「都丸家住宅 伝 小栗上野介邸」ほか	2
6 市街視察調査	2
7 建造物調査都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」	2

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	3
2 整備事業	9
3 普及事業	13

第3章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業	23
2 市内遺跡発掘調査事業	38
3 遺跡台帳整備事業	38
4 埋蔵文化財資料整備事業	38
5 文化財資料管理	40
6 上野国府等保存整備事業	40

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

1 建造物調査「都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」」

- (1) 日 時 平成 26 年 4 月 21 日 (月)
(2) 調査対象物件 都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」
※未指定
(3) 調 査 者 村田委員
(4) 概 要

總社町山王地区に所在する幕末期の幕臣小栗上野介由に由来するとされる建造物の現況と基礎資料を収集することを目的に調査を実施した。調査では、間取りの探し状況や屋根裏の状況から幕末期の建造物であることが推測された。今後、細かな調査を行うことで、建物の来歴に迫れるのではないかとされた。



2 建造物調査「塩原蚕種」

- (1) 日 時 平成 26 年 6 月 24 日 (火)
(2) 調査対象物件 塩原蚕種 (塩原家) ※未指定
(3) 調 査 者 村田委員
(4) 概 要

本市及び周辺地域の蚕種業において大きな役割を果たした田口町内に所在する塩原蚕種 (塩原家) の建造物及び敷地内の基礎データを収集するため、調査を実施した。

調査では、主屋の現況及び間取りの探し、敷地内施設の確認が行われた。全体的に保存状況が良く、今後、主屋を含む建造物及び文献等の細やかな記録調査を実施する必要性があることが確認された。



3 樹木調査

- (1) 日 時 平成 26 年 10 月 27 日 (月)
(2) 調査対象物件 時沢の夫婦マツ ※県天
横室の大カヤ ※国天
大胡神社のムクロジ ※市天
西大室町公民館の
オハツキイチヨウ ※市天
井川上神社のシイ ※市天
(3) 調 査 者 片山委員 梅澤委員
(4) 概 要

昨年度までに人幅な現状変更が行われた上記指定物件の樹勢確認調査を行った。継続調査を実施している横室の大カヤも樹勢回復の兆候が確認できた。また、西大室町公民館のオハツキイチヨウにあっては、強剪定されたことで、実のつきかたが心配されたが、無事に「オハツキ」を確認することができた。



4 建造物調査「市内建造物調査」

- (1) 日 時 平成 26 年 10 月 30 日 (木)
(2) 調査対象物件 大徳寺懇門 ※市重
大竹レンガ蔵倉庫 ※未指定
(3) 調 査 者 村田委員 井上委員
(4) 概 要

来年度、市補助事業活用意向を示している「大徳寺懇門」と国登録文化財への申請を検討している「大竹レンガ蔵」の現況把握と今後の方針を検討するため調査を実施した。



大徳寺總門では、委員会の設置、總門の解体調査を伴う図面作成、事業終了後の報告書作成が必要であることが確認された。

大竹レンガ蔵倉庫の調査では、登録申請に向け、県教委と調整をとるようとに指導を受けた。

5 建造物調査「都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」ほか」

- (1) 日 時 平成 26 年 12 月 8 日 (月)
- (2) 調査対象物件 都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」
※未指定
- (3) 調 査 者 村田委員
- (4) 概 要

調査委託業者を交えて、調査の手法、方向性等の確認及び現地調査を実施した。調査では、本物件が上棟後、複数回にわたり別の所有者の手に譲っていることから、多くの改造が予想されるため、慎重に調査を進めることができた。

6 市外視察調査

- (1) 日 時 平成 26 年 12 月 14 日 (日)
- (2) 調査対象物件 田島弥平旧宅（伊勢崎市）
中島知久平邸（太田市）
中の家（深谷市）
清風亭（深谷市）
誠之堂（深谷市）
日本煉瓦株式会社旧製造施設
(深谷市)
- (3) 調 査 者 井上委員 梅澤委員 岡田委員
片山委員 村田委員
- (4) 概 要



隔年で実施されているものである。今年度は、伊勢崎市及び太田市、深谷市の協力の下、国指定文化財を中心に視察調査を行なった。伊勢崎市では世界文化遺産登録「富岡製糸場と絹産業遺産群」の4つの構成資産のうちの1つである「田島弥平旧宅」の現状を視察。また、深谷市では、本県絹遺産と関連が深い「中の家」他の渋沢栄一関連の文化財を視察し、日本煉瓦株式会社旧製造施設では、今後の整備の方向性などを教委より説明を受けた。太田市では、中島知久平邸の整備状況と今後の見通しなどの説明を受け、文化財の整備事業における共通の問題点等について交換が出来た。

7 建造物調査都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」

- (1) 日 時 平成 27 年 1 月 20 日 (火)
 - (2) 調査対象物件 都丸家住宅「伝 小栗上野介邸」※未指定
 - (3) 調 査 者 村田委員
 - (4) 概 要
- 調査委託業者の中間報告を受け、内容の確認及び指導を行なった。報告では、業者より成果報告のほか、屋根裏の小屋組みの不整合部分や屋根勾配の不明部分等について質問が出され、新たな痕跡の捉え方、推測法や図面作成のあり方等について指導がなされた。

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

文部科学省（文化庁）が所有する、国有文化財天川二子山古墳と總社二子山古墳の2箇所について実施した。見廻り監視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財監視人として委託した。落枝の処分については、担当者が定期的に行つた。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、總社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ2回実施した。また、總社二子山古墳については、敷地内南東で折れた桜の枝を委託にて切り落とし、西側の電線に張り出た桜の枝は、東京電力株式会社による無償の伐採を行つた。



天川二子山古墳監視

(2) 国・県・市指定文化財管理

今年度は、新指定文化財による増は無かつた。平成27年3月末現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指 定 名 称	国指定	県指定	市指定	合計
重要 文 化 財	5	39	140	184
史 跡	11	12	45	68
無 形 文 化 財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天 然 記 念 物	2	3	13	18
名 勝	0	1	0	1
合 計	18	57	243	318
登録有形文化財	21			21
登録有形民俗文化財	1			1
重 要 美 術 品	8			8

① 史跡等の除草及び竹片付け

ア 市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積(m ²)
1	車橋門跡	市指定	大手町 2-5-3	750
2	龟塚山古墳	市指定	山王町 1-28-3	4,968
3	金冠塚古墳	市指定	山王町 1-13-3	4,814
4	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624
5	八幡山古墳	国指定	朝倉町四 丁目 9-3	20,000
6	宝塔山古墳	国指定	總社町總 社 1606	2,204
7	蛇穴山古墳 隣接地	国指定	總社町總 社 1587-2	5,674
8	總社古墳隣 接地		總社植野 365-2	792
9	女堀	国指定	富田・東大 室・二之 宮・飯土井 他	76,149
10	天神山古墳	県指定	広瀬町一 丁目 27-7	730
11	不二山古墳	市指定	文京町三 丁目 151-6	1,142
12	大日塚古墳	市指定	五代町214	1,124
13	荒砥不二山 古墳	県指定	西大室町 813-2他	2,700
14	大胡城跡	県指定	河原浜町 660-1 急傾斜地 660-31,32	24,934 5,000
15	堀越古墳	県指定	堀越町 861-1	582
16	達見山古墳	市指定	總社町總 社 1410	3,886
17	阿久沢家住 宅	国指定	柏倉町604	2,400
合計				162,473



大胡城跡急傾斜地除草作業

イ 国指定史跡女堀二之宮町228-1
他の竹片付けの業務委託を行った。
実施期間 26年5月12日～6月29日
実施場所 女堀西沼 1,500m²

② 史跡の樹木管理
危険樹木の伐採を、大室公園史跡内・
遠見山古墳・中二子古墳・亀塚山古墳・
女堀(二之宮地区)・總社古墳群・八幡
山古墳で行った。

③ その他の環境整備追加
スマバチが発生したため八幡山古
墳・總社二子山古墳・牆城跡の駆除を行
った。

市が直接管理する国指定史跡4ヶ所の
樹木に発生する害虫アメリカシロヒ
トリの防除を行なうため、オルトラン
カブセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注
入を職員により実施した。

○ 実施日 平成26年6月24日(火)
○ 実施場所

①天川二子山古墳 ②總社二子山古墳
③宝塔山古墳④蛇穴山古墳
⑤大胡城址

○ 樹木本数 90本(五ヶ所合計)
市が管理している、国指定史跡の女堀
二之宮町地区の西沼北側、東沼北側に生
えている竹に竹桿注入を行い竹の枯渴を
計った。

○ 実施日 平成26年8月21日(木)
○ 実施場所 国指定史跡女堀

二之宮町地区

竹桿注入本数およそ250本。

施設老朽化による破損のため、大手町
三丁目地内の風呂川看板修理、及び柏川
出土文化財管理センター一階ハブ屋根
修理を行った。

(3) 文化財の保護

① 市内所在の文化財の異動
群馬県指定重要文化財「脇差 銘喜翁
藤直胤 一口」(昭和34年8月5日指
定)が群馬県文化財保護審議会の審議
において「滅失」と判断され、平成2
5年9月17日付で指定解除された。

② 指定文化財の現状変更について
今年度の現状変更是、国指定文化財が
4件、県指定文化財が1件、市指定文
化財が4件であった。

詳細は一覧の通り

種別	指定名称	内容
国天	岩神の飛石	飛石本体及び周辺へのボーリング調査、飛石周囲へ発掘調査(トレンド)
国史	天川二子山古墳	国庫補助事業(外柵設置工事)
国史	八幡山古墳	外柵設置工事
国史	女堀(二之宮西沼)	発掘調査(トレンド)
県史	大胡城跡	落石防止フェンス設置
市重	總社神社拝殿	木階廻り、軒裏の補修、金箔塗りなおし、鬼瓦修理
市重	總社神社拝殿	神饌所、渡り廊下設置
市重	臨江閣別館	カギ及びガラス交換
市重	臨江閣別館	破れた襖紙の上に、新たに似た襖紙を張る

③ 寄附の受入

前橋ロータリークラブより、創立60周年事業として、寄附の申し出があり、臨江閣正門扉一式を受け入れた。

柳生信州金庫創立90周年事業として、寄附の申し出があり、臨江閣の整備及び活用に役立てるため、金100万円を受け入れた。

旧総社資料館土地及び建物を所有者より、寄附の申し出があり、適切な保存管理が必要なことから受け入れた。

その他貴重な文化財資料を受け入れた。

- ア ひな人形五段飾り（大正末期）
- イ ひな人形七段飾り（昭和8年）
- ウ ジオラマ
重要文化財阿久沢家住宅（修理前）
赤城型民家
- エ T.芸創作盆栽
五葉松、下草（しのぶ、しだ）

④ 文化財防火訓練及び防火査察

ア 防火査察

3 8件の文化財査察対象物に対して
9班編成を組み、前橋市消防局（各消防署）及び東京電力㈱等と協力して、
合同立入査察を実施した。

○平成27年1月21日（水）

《第5班西消防署：4施設》

光嚴寺兼医門、打敷・油單並びに幡（總社町總社 光嚴寺）、上野總社神社本殿、他（總社町一丁目 總社神社）、徳藏寺懸仏・麻木若色両界曼荼羅一對（元總社町一丁目 徳藏寺）、大德寺總門・多宝塔（小柏木町 大徳寺）

○平成27年1月22日（木）

《第3班東消防署：6施設》

堀下の仏像群（堀越町）、旧諫訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一對（堀越町）、大胡神社の算額（河原浜町 大胡神社）、阿久沢家住宅（柏倉町）、柏倉諫訪神社の歌舞伎舞台・他（柏倉町 謫訪神社）、込皆戸三番叟人形一括（前橋市柏川出土文化財管理センター）

《第4班東消防署：5施設》

狂歌合せの額・他（市之関町 住吉神社）、木造十一面觀音立像（船岡町女瀬 觀音堂）、三夜沢赤城神社木彌内宮殿（三夜沢町 赤城神社）、金剛寺木造十一面觀音坐像・他（苗ヶ島町 金剛寺）、近戸神社御輿・他（柏川町月山 近戸神社）

《第8班北消防署：2施設》

日輪寺寛永の絵馬・十一面觀世音像（日輪寺町 日輪寺）、鐵造阿弥陀如來坐像（端気町 善勝寺）

《第9班北消防署：4施設》

横室の歌舞伎衣装（富士見町横室）、萩林庵の阿弥陀像（富士見町原之郷）、原西の阿弥陀像（富士見町原之郷）、時沢の仁王と多宝塔（富士見町時沢）

○平成27年1月23日（金）

《第1班中央消防署：4施設》

梵鑑（千代田町三丁目 妙安寺）、臨江閣本館・茶室・別館（大手町三丁目）、前橋藩主松平家奉納能装束一式（大手町三丁目 東照宮）、酒井家史料（129点）、前橋祇園祭礼絵巻（二卷）（市立図書館）

《第2班中央消防署：5施設》

旧蚕糸試験場事務棟（敷島公園ばら園）、神明宮の甲冑・奈良三彩小壺（総合教育プラザ）、東福寺鰐口（三河町一丁目 東福寺）、石造薬師三尊立像（泉巣町）、上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞（上泉町）

《第6班南消防署：2施設》

円満寺薬師如来座像（後閑町 円満寺）、駒形午頭天王の獅子頭一対（駒形町 駒形神社）

《第7班南消防署：6施設》

慈照院千手觀音坐像（二之宮町 慈照院）、二宮赤城神社絵馬・梵鏡・納豆利面（二之宮町 二宮赤城神社）、無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面觀音立像（二之宮町 無量寿寺）、旧閑根家住宅（大室公園）、産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地（下大屋町 産泰神社）、旧アメリカンボード宣教師館（小屋原町 共愛学園）

イ 文化財防火訓練

上野總社神社社務所内から出火し、
本殿及び拝殿に延焼拡大の様相を呈しているという状況設定のもと、文化財の搬出や延焼防止、火勢制圧を想定した演習により、中継送水・水幕ホース設定・放水訓練が行われた。

○平成27年1月24日（土）

午前9時30分から

午前10時30分まで

会場：上野總社神社（県指定重要文化財）

前橋市元總社町一丁目31番地45

（参加機関）

前橋市消防局（西消防署、利根分署、中央消防署、千代田分署）、前橋市消防団（第4分団、第5分団、第6分団、第7分団）、上野總社神社、

前橋市文化財保護課



訓練の様子

⑤ 文化財パトロール

市内を 10 地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置し、指定文化財の管理に努めた。月 1 度のパトロール報告書により、除草や修理の対応を行った。第 1 回会議は 4 月 15 日に開催し、委嘱式が行われた。また、文化財保護指導員の資質の向上を図ることを目的として、平成 26 年 1 月 27 日、研修視察として筑波山展望台→筑波山神社→六所神社跡→平沢官衙遺跡→つくば市出土文化財管理センター→国土地理院「地図と測量の博物館」を見学した。

(4) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園のこの場所に解体移築し、昭和 57 年 4 月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。日常管理を前橋市シルバーパートナーズセンターに委託し、見学者の受付と館内外の清掃を行っている。このほかに管理業務では、消防設備保守点検、換気及び周辺清掃業務を委託している。

建物内に 4 つの展示室(①開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座織器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕信仰の資料)を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催により、ゴーランデン ウィークから団体客が多數来館し、8、443人の見学者があった。また、バラまつり、バラフェスタの期間中、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て座織り・桑の木クラフト体験コーナーを設けた。今年は、春のば

ら園まつり期間に 4 回、秋のバラフェスタ期間に 3 回行った。春・秋合わせて 665人が座織り体験を楽しみ、自分で挽いて採った糸をお土産としてプレゼントした。

また、桑の木クラフト体験では、537人が桑の木のクラフトに挑んでいた。ばら園まつり、バラフェスタでは、いろいろなイベント行われており、その一つとして来場者は存分に楽しんでいる。



座織り、桑の木クラフト体験の様子

(5) 前橋市総社資料館の管理・活用

昨年 7 月の閉館により、引き続き総社公民館敷地内の代替施設にて、学校見学を中心とした対応を行っている。

見学対応にあたっては地元で組織された説明員に委託を行っており、現在の代替施設では主に、秋元氏や天狗岩用水に絞り込んだ内容の案内解説を行っているが、来館者の希望に応じ、総社地区の古墳の説明や、付近の古墳の案内にも応じている。

また、当面の施設縮小に伴い、施設近隣の史跡の清掃も依頼している。月 2~3 回、2 人ずつ、年間 30 回程度実施。

開館日数は 30 日、来館者数は 2,246 人であった。43 の団体・個人・学校の見学対応を行い、うち学校見学は、37 校 2,169 人であった。

3月には説明員研修を実施した。今回は沼田市・渋川市の文化財や関連施設を対象として、沼田公園（城址・生形家・土岐家）、赤城歴史民俗資料館・北橘歴史資料館・渋川市埋蔵文化財センターなどを見学した。文化財的な資料や展示物の説明・解説の方法など、参考にできる点が多かったと思われる。

説明員研修視察（沼田城址）



(6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民族資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は春季に企画展を開催し多くの市民に開心を持っていただくことをねらった。開館日数は178日入場者数合計1,401人を数えた。

春季企画展

「謎の山岳寺院跡 宇通遺跡を探る」を開催した。

開催期間 平成26年4月26日から
平成26年8月31日

秋季企画展

「足元に眠る歴史～柳久保遺跡群～」を開催した。

開催期間 平成26年10月4日から
平成27年2月1日



(7) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

施設内の機械警備・小荷物昇降機・浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出しで、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

6月8日に開催された大宝イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座禅の体験を行い、多くの参加者を集めた。

(ア) 管理業務実施日は以下のとおりである。

4月から11月まで: 月曜日を除く毎日。

12月から 3月まで: 七・日・祝日。

前二子、後二子石室鍵開け 午前9:00

前二子、後二子石室鍵閉め 午後4:00

(イ) 点検場所

1. 前二子古墳 2. 中二子古墳 3. 後二子古墳 4. 付小古墳

※清掃は石室開閉時に実施している。

(ウ) 年末年始休業

1月29日(月)から1月3日(木)まで

(9) 前橋市民家園の管理・活用



民家園外観

昨年度途中より委託している、シルバーハートセンターに引き継ぎ管理運営を委託している。

清掃等日常管理の他、見学者への案内も可能なことから、日常的な不備・不足点を

補うことができる。案内用務については来園者にも好評である。

平成26年度の開館日数は183日、民家園来園者数は7,709人となっている。

「大室イベント」や「大室古墳の教室」各事業での会場、「大室古墳の語り部」ボランティアの活動拠点としても利用されており、11月には園内の土蔵を改装し「大室はわ館」がオープンした。

また本年度より、茅葺屋根保存維持のため専門業者による蒸蒸を4回実施した。



民家園見学者

(10) 鹿江閣の管理・活用

日常管理については、前橋市シルバーカー材センターへ委託し、4月から12月まで管理人を2名常駐させていたが、1月からは「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」の一環として3名で館内外の清掃と見学者の受けを行った。また、開館時間を1月より17時までとした。このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者を委託した。なお、庭内の樹木は、一括管理が効率的と判断し、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。

1月と3月には、管理人・消防設備点検業者を呼んで、消防署隊員の立会いのもと、消防訓練を行った。

また、AEDが設置されたのに伴い、管理人は、消防隊員から救命講習を受けた。



AED講習の様子

施設の活用では、昨年度に引き続き「鹿江閣と近代前橋のあゆみ」を開催し、「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」として、本館に新たに「横取素彦」を中心とするパネル展示をし、別館においても「横取素彦あゆみ」のパネル展示するなどした。

今年度の雛人形展は、別館2階大広間の舞台を利用して展示した。

開催期間

平成27年2月6日(金)から

平成27年4月12日(月)まで

また、別館洋間に前橋広域物産振興協会運営による「かふえ あんきな」を開設した。

イベントは、お茶会を中心にいけばな、百人一首大会、講演会等さまざまな文化的行事が行われた。また、今年はテレビ撮影、落語会などにも利用された。

見学は、例年どおりの学校関係、各種団体の学習見学の他に、夏以降「大河ドラマ花燃ゆ」ゆかりの建物ということで、注目を集めツアーや見学が急増した。

撮影は、結婚企画会社や写真館が中心に結婚衣装・七五三・成人式・写真等の写真撮影が行われ、1年を通して頻繁に利用された。記念写真的撮影場所として広く認知されており、昨年に比べるとかなり増えてきている。NHKテレビ情報番組640で鹿江閣が紹介されるなどテレビ、新聞等各メディアでの露出が多かった。

最後に鹿江閣への平成26年度の入場者数であるが、利用・見学・写真撮影など、41,693人であった。

庭園からも入館できるようにするために、石橋に手摺を設置するとともに、庭の整備を行い、来館者増加のため、案内表示を設置した。

保全修理では、3月の大雪により破損した本館の雨樋等の修理を行い、茶室雨漏り修繕及び別館屋根の破損瓦を撤去するなどした。茶室の建仁寺垣も腐食により倒壊の恐れがあるため、建替えた。建物内においては照明器具不点箇所の修理、建具の欠損、鍵の破損等の修繕を行い障子の張替えなど施設の保全に努めた。



雛人形の展示

(11) 重要文化財阿久沢家の管理・活用

国指定重要文化財である阿久沢家住宅について通常管理は、地元で組織する「阿久沢家住宅を守る会」に委託している。4月から1月は月曜休館（祝日の場合開館し翌日休）、12月から3月は平日休館（祝日開館）で一般公開を行っている。（平成26年10月から平成27年4月にかけ屋根の葺き替えのため、一般公開停止）



阿久沢家住宅内部

(12) 刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

① 刀剣の製作承認

7口（太刀4、短刀3）の承認申請があり、すべてを承認した。

承認後、県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ承認した旨を通知した。

② 刀剣の手入れ

本市所有（主に寄附受入による）の刀剣等を、良好な状態で保存するため、専門的な技術者による手入れを年2回行っている。

対象刀剣類は7種53口。状態は良好で2回とも、錆や異状のあるものは見受けられなかった。



手入れの様子

(13) 文化財保護課庁舎移転・民具整理

三保庁舎、柏川出土文化財管理センターに保管していた民具の台帳化を臨時職員2名で行った。また、業者委託により三保庁舎の収蔵遺物と民具を鳥羽收藏庫（鳥羽町190）へ移転した。

2 整備事業

(1) 隅江閣整備事業

○前橋市隅江閣整備委員会

隅江閣を末長く保存整備し、積極的な利活用を図っていかなければならない。そのため、本市を代表する近代和風建造物である隅江閣の整備について、文化財保護、建物調査、整備工事等の専門的な見地から検討し、及び協議を行う。

① 前橋市隅江閣整備委員会建築

専門会議

ア 開催日及び会場

平成26年4月18日

文化財保護課2階会議室

イ 出席者

（委員）村田委員、松野委員

（委託業者）景観建築研究機構6名

（関係課）教育施設課大館課長、橋本係長、鈴木主任

（事務局）文化財保護課小島課長、岩瀬係長、登山副主幹、江黒主任

ウ 内容

（1）隅江閣保存整備事業実施設計案について

（2）その他

上記内容について協議・検討を行った。（主な意見）

・仕様書の解体調査の方針や手順が抜けていた。どこを調査するか明らかにしておく。

- ・今回の工事は、解体し、調査しながら進めていく。
- ・設計の仕様書には、調査の方針及び修復方針等を別紙として添付する。
- ・電気のスイッチは、1階のみではなく、2階にも設置する。
- ・正面入口の門柱は、現状ではクレーン車が入れないため、工事中一次撤去し、元に戻す。

② 第8回前橋市臨江閣整備委員会

ア 開催日時及び会場

平成26年5月9日

文化財保護課2階会議室

イ 会席者

(委員) 梅澤委員長、村田委員、内田委員、松野委員、樽井委員
 (委託業者) 景観連携研究機構6名
 (関係課) 中島教育次長、角田参事
 教育施設課人館課長、橋木係長、鈴木主任、公園管理事務所丸山所長
 (事務局) 文化財保護課小島課長、岩瀬係長、登山副主幹、江黒主任

ウ 内容

- (1) 臨江閣保存整備事業実施設計案について
- (2) その他
上記内容について協議・検討を行った。
(主な意見)
 - ・別館玄関に入った2階の床が沈んでいる箇所の補強は、新たに梁をして、この柱の内側に、この梁を支える柱を4本架けて補強する。
 - ・屋根の上の土を落ろし、全体の重量が軽くなると、小屋がたわんでくる。その計測及び監理をするよう一文を実施設計に加える。
 - ・工事をする前には、現状変更届を出す必要がある。
 - ・仮設の設置期間は、屋根の部分が6ヶ月、取り付け1ヶ月、撤去1ヶ月になる。
 - ・改修の際に、使われる新材料には、製作年を入れ、当初材等と区別できるようにする。
 - ・臨江閣の特徴となる床組みや梁の部分を部分的に見せたりできるよう工夫する。

・前回の案では、2階に照明スイッチはなかったが、大広間でのスイッチの入切を考え、設置する。

・照明器具は復原1台とレプリカ4台作製する。また、現存のものがどこで作製されたものかを調査し、報告書に記載する。

○臨江閣保存整備事業実施設計業務(継続)

群馬県及び前橋市指定重要文化財「臨江閣」について、前橋市の宝として、今後100年の保存と活用のため、保存管理計画書に基づき保存修理・保存整備事業に係る実施設計業務を行った。

平成25年度事業であったが、具体的な復原方法等の決定に対し、慎重を要するため委託期間を平成26年度に繰り越した。

事業費 22,636,320円

○臨江閣保存整備事業建築工事

今年度より2ヵ年計画で、臨江閣の大規模な保存整備工事を行う予定であったが、NIKK大河ドラマが、群馬県初代県令横取素彦の妻・文を主人公とした「花燃ゆ」に決定し、横取素彦にゆかりのある臨江閣も舞台になることが考えられるため、本市の観光振興及び地域経済の活性化、知名度の向上、イメージアップを図るために、大河ドラマ放映期間の1年間工事を延期した。

【工事総事業費(2ヵ年)】

508,608,000円

保存改修工事 473,000,000円

工事監理業務 35,608,000円

(2) 総社資料館整備事業

歴史資産の宝庫である総社地区的文化財に至近の場所に、ガイダンス施設としての資料館を建設し、学校教育等における体験学習の中心施設として、また総社地区的文化財見学者にとって利便性の向上を図ることを目的として整備するものである。

平成26年度は総社資料館用地の取得を行った。また、地元と協議しながら資料館本体の実施設計と、展示設計を行っている。

今後の計画としては、平成27年度に資料館実施設計と展示実施設計を実施して資料館を建設する。また、平成27~28年度にかけて展示製作・設置を行い、平成28年度中に開館予定である。

(3) 重要文化財阿久沢家住宅整備事業

公有化以降住宅周辺の環境整備を実施し、適切な保存環境の整備を実施してきた。平成26年度は国庫および県費の補助を受け建物の屋根葺き替え工事および部分修理工事を実施した。

①屋根工事：軒付・軒作りを含めた全面を葺き替えた。茅葺下地の竹材は虫害等の破損があるものはすべて取り替え、繩の締め直しを行った。

②壁修復：正面・東西・背面の外側足元のはか、雨漏りで被損した背面内外面の補修を行った。

③木部補修：「なんど」、「ひろま」、「こざ」の床板の補修および根太の調整を行った。

④へつつい補修：粘土の剥落した箇所の補修を行った。

⑤畳工事：「こざ」の畳をすべて新畳に取り替えた。

当初平成26年度単年度事業の予定であったが、工事内容の増加や冬季の強風による作業の遅延から、平成27年度に繰り越して事業を実施し、工期は平成27年4月30日までである。



工事見学会の様子



屋根葺き替え工事完成後

(4) 天然記念物岩神の飛石整備事業

岩神の飛石の環境整備事業は、昭和51年度に囲柵・標識及び説明板設置工事が実

施されて以来の事業である。平成25年度からの継続事業であり、今年度は国指定以来不明確であった、飛石の来歴に迫る調査（データ収集）を実施した。岩体周辺にボーリングによる掘削を行い、地下部分の確認調査を実施した。加えて、巨岩が太古より信仰の対象となっている可能性があるため、考古学的な観点からトレンチ調査を実施した。

また、前橋泥流の等厚線及び等高線図を作成することで巨岩の来歴を探る資料とともに、市内の泥流の状況を把握するために実施した。

【事業の概要】

事業主体 前橋市

事業名 天然記念物岩神の飛石史跡等

登録記念物歴史の道保存整備事業

事業費 9,365,389円

実施期間 平成26年4月1日

～平成27年3月31日

実施方法 国、群馬県からの補助金を受け、文化財の修理に精通した業者と工事請負契約を締結し実施。

工事内容 ①地下部分確認調査（ボーリング掘削調査）

②考古学的調査（発掘調査）

③前橋泥流底面等高線図及び泥流等層厚線図作成委託

④岩石成分調査委託

※昨年度よりの継続

なお、周辺環境の整備や保存管理計画策定などの諸整備事業を実施するにあたり有効且つ円滑に行うため、本事業では有識者による委員会を設立し、指導助言をいただきながら事業を実施した。

【参考】

(環境整備委員)

野村哲委員、梅澤重昭委員、片山満秋委員
小池洋七委員、瀬尾茂委員

(指導助言)

文化庁 柴田技官、県教委 田島指導主事
県自然史博物館 菅原学芸員
群大講師 能登 健
(開催会議)

○第1回国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会議(平成25年8月20日実施)

○第2回国指定天然記念物「岩神の飛石」
環境整備委員会議（平成26年2月2
5日実施）

(5) その他史跡に関する保存修理事業

① 八幡山古墳柵改修

3年計画の最終年として、西側、南側の
外柵134.5mを整備した。



八幡山古墳外柵

② 天川二子柵改修

既設の外柵を撤去し、新規の横断防止
柵186.3m、ロープ柵83.3mを設置した。



天川二子古墳外柵

③ 大胡城落石防止フェンス設置

隣接する道路へ史跡の石等が落不しな
いようするため、フェンスの設置(19.4
m)を行った。

④ 総社二子土留工事

西側石室上部の土砂が崩れ、危険防止
のため土留工事 (H=0.4m3段 20m)
を行った。

(6) 指定文化財説明板の整備

説明板・標柱の新設及び書替を行った。

・説明板新設1箇所

①金剛寺（赤城塔並木道祖神・金剛寺木
造十一面觀音坐像・金剛寺の懸仏・金剛
寺本堂の欄間彫刻・金剛寺の宝篋印塔・
金剛寺の石造五層塔・金剛寺の双体道祖

神・金剛寺のナツメ）

②金剛寺（金剛寺の石壇・石殿 おびん
づる様・石殿 開山円義上人の墓）

③光嚴寺（光嚴寺の打敷油卓並びに幡・
石山寺縁絵机・三具足 一具・輪口瓜形
釜 伝芦屋 一口 附懸め書 三通）

④總社神社（上野總社神社本殿一棟・總
社神社拝殿・總社神社の筒粥置炭式・總
社神社の社叢けやき 6本）

⑤三夜沢赤城神社（三夜沢赤城神社本殿
内宮殿 一基・三夜沢赤城神社本殿並び
に中門 二棟・三夜沢赤城神社の古文書
四十五通・三夜沢赤城神社太々神樂）

⑥赤城神社（三夜沢赤城神社の宝塔（赤
城塔））

⑦諏訪神社（馬頭観世音懸仏・柏倉諏訪
神社の歌舞伎舞台）

⑧城東町二丁目（前橋鶴木造り懸振り梯
子乗り）

⑨宝林寺（石造觀音菩薩坐像）

⑩白山古墳

⑪楕形遺跡

標柱設置 2箇所

秋元氏墓地・石造薬師三尊立像

説明板書替 2箇所

西大室町公民館のアハツキイチョウ・荒
砥富士山古墳

(7) 群馬県史跡整備市町村協議会

前橋市では、群馬県史跡整備市町村協
議会に加盟しており、平成26年度より
会長市として、事務局を担うこととな
った。

協議会では史跡の整備や保存活用のた
め、県内選出の国会議員への予算陳情を
実施するほか、担当職員の研鑽のための
研修会などを実施した。

主な活動内容

① 平成25年度総会及び研修会

日 時 平成26年5月28日（水）
午後1時30分～

会 場 藤岡教育庁舎3階第1会議室

内 容

・総会

・研修会

文化庁文化財部記念物課

文化財調査官 中井将胤氏

「中近世城跡の整備について～

今後の整備と活用～」

・視察 国指定史跡 高山社跡

- ② 群馬県内文化財担当職員交流会
 日 時 平成26年9月26日(金)
 午前10時～
 会 場 甘楽町役場
 研修内容
 元名勝楽山園整備委員会学術委員
 (元長岡造形大学教授)
 「江戸時代の大名庭園と楽山園」
 飛田 範夫



研修会の様子

事例発表

- 「楽山園整備事業等について」
 甘楽町教育委員会社会教育課
 課長補佐 小安 和順
 視 察
 楽山園・長岡今朝吉ギャラリー・
 松浦家見学案内



楽山園

- ③ 群馬県知事・群馬県教育委員会教
 育長への陳情（県史協役員市町村）
 日 時 平成26年10月27日(月)
 午後2時～
 ④ 全史協臨時大会・史跡等関係予算
 地元国会議員陳情
 日 時 平成26年11月7日(金)
 陳情先 群馬県内選出国会議員
 参 加 8市、1村、県、
 県東京事務所
 また、関東地区史跡整備市町村協議
 会においては、監査市として7月25
 日(金)の役員会・総会・研修会に出席した。

3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として、両市の所有する文化財を広く紹介することにより、文化財の共有化と市民相互の文化意識の向上や、文化財への理解に寄与することを目的として、文化財展「東国千年の都」を開催した。

①展示テーマ

東国千年の都

『石を使って3万年～削る・飾る・祈る』
 今年度は素材としての石をテーマとした。
 石は、暮らしを便利にする石器として、
 カラダを美しく飾る装飾品として、カミ
 に祈りを捧げるための祭祀具や崇敬対象
 そのものとして、または住居や城等を建
 てるための建築部材として、はるか遠い
 旧石器時代から現代まで、私たちの生活
 の様々な場面において欠かすことのでき
 ない素材である。本展示は、前橋・高崎
 両市における代表的な出土品を通じて、
 私たちの生活の営みと石とのかかわりを
 考える構成とした。また、今回は両会場
 で展示解説会を実施した。

②期日・会場

- ・前橋会場 平成27年1月8日～13日
 前橋プラザ元気21
 1階にぎわいホール
- ・高崎会場 平成27年1月17日～26日
 高崎シティギャラリー 2階
 第6展示室

③開催結果

総計3,026人に来場いただき、
 うち前橋会場では2,005人だった。
 前橋会場でのアンケート結果では、こ
 の文化財展の感想として「おもしろい」
 85.4%「興味深い企画だ」90.
 6%「展示されていた遺跡を訪ねてみたい」
 82.3%「もっと続けてほしい」
 83.3%（回答者96人）と好評を得た。



展示解説会の様子

(2) 第42回前橋市郷土芸能大会

- ①日 時 平成26年11月22日(土)
- ②会 場 前橋市民文化会館 小ホール
- ③内 容

毎年開催している郷土芸能の公演。市内から部門別で5つの団体と近隣市町村から招待した1団体に出場いただき、計6団体で公演を行った。

近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっているが、今回は波川市より「伊香保祭囃子」に出演いただいた。

もう一つの恒例となっている抽選会も実施した。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで場内の活気を維持するねらいで実施しており、市内外20の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、市関係施設にチラシの配架依頼を行うなど、広報活動も積極的に行なった。(延べ700名入場) 郷土芸能の継承にも繋がるよう、若い世代の集客を目指し、より魅力ある大会へと充実を図っていきたい。

六供お囃子	六供町 お囃子保存会	六供町
-------	---------------	-----



公演の一場面

(3) 郷土芸能映像記録保存

本事業は平成2.1年度の実施を最後に中断していたが、今回(財)「地域創造」の助成を受け撮影が実現した。

打合せ・撮影・編集にあたり各保存会に協力いただき、3つの郷土芸能を撮影することができた。

成果品については、市ホームページで公開するなど、継承や普及に役立てていきたい。

撮影郷土芸能

- ・江田鏡神社の獅子舞（市無民文）
平成26年10月8日本撮影
- ・二宮赤城神社太々神楽（市無民文）
平成27年1月1日本撮影
- ・上青梨子の盆踊り
平成26年9月6日本撮影



撮影の様子（二宮赤城神社太々神楽）

(4) 旧安田銀行担保倉庫広報活動

県の補助金を受け、旧安田銀行担保倉庫（協同組合前橋商品市場倉庫）を、ぐんま絆遺産として広くPRするためDVDの作成、配布を行った。またDVDの上映会を行なうと同時にパネル展示も行った。

郷土芸能の名称	保 存 会 名	所 在 地
総社神社 太々神楽	総社神社太々 神楽保存会	元総社町
江田かつぎ地蔵	江田町 子供会育成会	江田町
伊香保祭囃子	伊香保 祭囃子保存会	波川市 伊香保町
花和讚	極楽寺と講会 西光寺と講会	亀東町 上佐島町
野良犬獅子舞	清野町野良犬 獅子舞保存会	清野町

(5) 普及啓発

① 文化財解説ボランティア養成講座 「ふるさとの語り部」養成講座

昨年度の講座の修了式において、講座受講生を中心とした文化財解説ボランティア団体を設立し、今年度も引き続き実践的な講座内容として各メンバーの解説内容を高めるとともに、それぞれのスキルアップを図ることを目的として講座を行った。また昨年度策定した既定のコースのみではなく、新たな切り口によるコースについても検討し、本団体の解説内容に厚みを持たせた。

グループ検討や解説演習を通して解説技術を向上させ、解説実習では合計で54名のお客様に解説を行うことができた。



解説実習の様子

回	開催日	講義
第1回	5/11(火)	オリエンテーション
第2回	6/15(日)	グループ検討①
第3回	6/29(日)	解説演習①
第4回	7/13(火)	解説演習②
第5回	7/27(日)	解説演習③
第6回	8/10(日)	解説演習④
第7回	8/31(日)	グループ検討②
第8回	9/21(火)	解説実習①
第9回	10/5(日)	解説実習②
第10回	10/19(日)	研修
第11回	11/16(日)	グループ検討③
第12回	2/15(日)	講演会・反省会

② 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始してきた。平成26年度は、文化財の説明を「文化財解説ボランティア講座」の受講生にスキルアップのために行ってもらった。

(第1回目)

日時 9月21日(日)

8時45分～12時

コース：総社コース

参加者 10名

総社公民館→熊谷稻荷神社→元景寺→大狗岩用水→総社二子山古墳→愛宕山古墳→光巖寺→宝塔山古墳→蛇穴山古墳→総社公民館

コース：赤城南麓コース

参加者 12名

城南支所→二之宮赤城神社→近戸神社→お興懸け→三夜沢赤城神社奥門→三夜沢赤城神社→城南支所



ガイドする受講生

(第2回目)

日時 10月5日(日) 8時45分～12時

コース：前橋城コース

参加者 23名 (欠席者 1名)

前橋市役所→県庁県民ホール→虎姫観音→土塁（再築前橋城）→高浜公園→東照宮→臨江閣→風呂川→るなばあく→源英守→前橋市役所

コース：朝倉・広瀬コース

参加者 9名 (欠席者 1名)

文化財保護課三俣庁舎→大川二子山古墳→八幡山古墳→大神山古墳→亀塚山古墳→金冠塚古墳→文化財保護課三俣庁舎



ガイドする受講生

③ 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、延べ24校1,450名の指導を行った。

《実施校及び概要一覧》

実施日	学校名	学年	実施内容（実施場所）
4/25	桃瀬小	6年	古墳講義及び勾玉体験
4/25	桃井小	6年	総社古墳群めぐり
5/17	細井小	6年	土器つくり
6/3	粕川小	6年	大室古墳現地学習
6/11	桃井小	6年	勾玉造り（親子行事）
6/19	広瀬小	6年	土器つくり
7/2	岩神小	6年	土器つくり
7/17	芳賀小	6年	埴輪つくり
9/4	総社小	4年	総社古墳群現地学習
9/18	群大附属小	5年	前橋の歴史講義
10/7	粕川小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
10/17	桃瀬小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
10/30	岩神小	3年	総合学習（姫系記念館）
11/4	総社小	3年	総社古墳群現地学習

11/13	敷島小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
1/15	桃瀬小	6年	前橋空襲講話（原田さん講話）
1/23	月田小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
1/30	大胡小	3	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
2/4	新里中央小	3年（桐生市）	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
2/5	滝窪小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
2/12	大胡東小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
2/13	朝倉小	6年	前橋空襲講話（原田さん講話）
2/18	城南小	3年	地域の伝統的行事・芸能（郷土芸能）
2/24	桃木小	3年	昔のくらし・道具 新川歴史民俗資料館

○出前講座（生涯学習課事業）

今年度の実施状況は以下の通り。

- i. 「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」
2団体 100名
 - ii. 「古代の東国に咲いた華 山王発守」
実施なし
 - iii. 解明！古代前橋の中心
「推定上野国府跡」
3団体 116名
 - iv. 「文化財のあらましと保護行政について」
1団体 25名
- なお、その他事項として「公民館連携事業」に関するものとして明寿人学への講師派遣依頼があった。

④ 職場体験学習

今年度は、2件の依頼があった。そのうち1件は高校からの依頼を受け入れた。実施概要は以下の通り。

- 9/9～9/11
桂萱中学校 第2学年 3名
- 10/14～10/17
群馬県立前橋商業高等学校
第1学年 7名

⑤ 文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、「写真資料」のか貸し出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
酒井重忠画像(写真)	株式会社 碧水社
善勝寺鉄仏(写真)	小学館サライ編集部
春日神社太々神楽 (「蚕の舞」の写真)	群馬県企画部世界遺産推進課

⑥ 普及資料作成

文化財めぐりパンフレット

作成後10年以上経過した文化財めぐりパンフレットに関して、観光面での利用増加を目指して、リニューアルに着手した。平成26年度は、イラストレーターの芦村早苗さんを起用して、中央・南横版の原稿を作成した。

残り9地区分の原稿作成と10地区分の印刷は、平成27年度以降に行なう。

(6) 「大室古墳の教室」事業について

① 事業名称

史跡前二子古墳等・地域の特性を活かした史跡等総合活用支援事業「大室古墳の教室」

② 目的

史跡整備が完了した大室古墳群の一帯は大室公園として整備されたが、当初計画された資料館等のガイダンス施設の建設は実現していない。そこで国庫補助事業で「大室古墳の教室」事業を計画した。事業の内容は体験学習・考古学講座・資料展示等とし、大室資料館が開館するまでの間、この場所で事業を実施し、広く大室古墳群の活用を図っていくことを目的とする。

③ 事業費

5,000,000円(50%国庫補助対象)
平成26年度～28年度3カ年事業

④ 事業名・会場・日時・参加者人数

(ア) 小学生夏休み森の考古学教室

第1回 勾玉つくり①

会場：民家園東のM-4号墳の木陰

日時：平成26年8月7日(木)

9:00～12:00

参加者：20名

第2回 勾玉つくり②

会場：民家園主屋

日時：平成26年8月8日(金)

9:00～12:00

参加者：10名

第3回 墓輪つくり①

会場：民家園離れ

日時：平成26年8月14日(木)

9:00～12:00

参加者：18名

第4回 墓輪つくり②

会場：民家園離れ

日時：平成26年8月15日(金)

9:00～12:00

参加者：13名

第5回 鏕つくり

会場：民家園離れ

日時：平成26年8月21日(木)

9:00～12:00

参加者：19名

第6回 馬具つくり

会場：民家園離れ

開催：平成26年8月22日(金)

9:00～12:00

参加者：16名

(イ) 講座・赤城南麓の考古学2014
「赤城南麓の歴史遺産」

会場：民家園離れ

第1回 赤城南麓の旧石器時代

『旧石器人の道具箱』

講師：勢藤 力(伊勢崎市教育委員会)

日時：平成26年8月30日(土)

9:30～11:30

参加者：24名

第2回 赤城南麓の縄文時代

『おとし穴と弓矢狩の狩り』

講師：大工原 豊(國學院大學講師)

日時：平成26年9月6日(土)

9:30～11:30

参加者：26名

第3回 赤城南麓の古墳時代

『前二子古墳と多田山古墳群の

もがり屋』

講師：深澤 敦仁(県教委)

日時：平成26年9月30日(土)

9:30～11:30

参加者：33名

第4回 赤城南麓の古墳時代

『藤岡でつくられた前二子古墳
の須恵器』
講師：藤野 一之（坂戸市教委）
日時：平成26年9月20日（土）
9:30～11:30
参加者：30名
第5回 赤城南麓の奈良・平安時代
『寺と役所』
講師：出浦 崇（伊勢崎市教委）
日時：平成26年9月27日（土）
9:30～11:30
参加者：26名
第6回 赤城南麓の奈良・平安時代
『鉄をつくる』
講師：笠澤 泰史氏（県教委）
日時：平成26年10月4日（土）
9:30～11:30
参加者：25名
(ウ) 扱の教室
第1回 装飾須恵器をつくる
会場：大室民家園主屋・離れ
講師：桜岡 正信（県埋文事業団）
石井 政幸（一心齋主宰）
日時：平成26年10月10日（金）
から10月16日（木）まで
9:00～16:00
申込：24名 延べ人数：136名
第2回 繩文耳飾りをつくる
会場：大室民家園離れ



民家園での須恵器づくり

講師：松村 和男（県埋文事業団）
日時：平成26年10月25日（土）
から10月26日（日）まで
9:00～16:00
申込：19名 延べ人数：31名
第3回 古墳時代の馬具をつくる
会場：大室民家園離れ
講師：杉山 秀宏（県埋文事業団）
日時：平成26年11月7日（金）から
11月11日（火）まで

9:00～16:00
申込：24名 延べ人数：39名
第4回 須恵器窯詰め
会場：鼻毛石町一心窯
日時 平成26年11月29日（土）
9:00～12:00
参加者 15名
第5回 須恵器窯焼成と耳飾り復焼き
会場 鼻毛石町一心窯
日時 平成26年12月7日（日）
～8日（月）
9:00～11:00
(27時間連続焼成)
参加者数 27名
第6回 須恵器窯出し
会場：鼻毛石町一心窯
日時 平成26年12月13日（土）
9:00～14:00
参加者 15名
(エ) 匠の教室制作品完成記念考古学
講演会
演題：『金井東裏遺跡と大室古墳群～
5世紀後半から6世紀前半の上野地域』
講師：右島利夫
(県文化財審議会委員・群馬大学講師)
日時：平成27年2月7日（日）
14:00～16:00
会場：前橋市総合福祉会館
多目的ホール
参加者：220名
(オ) 大室はにわ館設置
準備期間：平成26年8月23日（日）
～10月31日（金）の土・日
スタッフ：市民ボランティア



大室はにわ館1階の埴輪展示

開館期日：平成26年11月1日
設置場所：民家園十歳
(西大室町2510)
展示面積：1階24m²・2階24m²
計48m²

開館期日：4月～12月
木から日曜日・祝日
1月～3月
土・日曜日・祝日・
年末年始は休館
9:00～16:00

展示資料：大室古墳群や大室公園内の
調査での出土品・前二子古墳
石室復元市民プロジェクト参加の市民ボランティア制作品。
東京福祉大学柴田研究室制作
教材の3D映像による大室古
墳群の紹介。体験コーナーな
ど

入館者数：11月 1,039名
12月 250名

(カ)「おおむろこふんの藤棚」設置
位置：大室公園民家園北、小二子古墳南
規模：10m×10m
ベンチ6脚（150cm角）
目的：一般市民の休憩用と小学生の体験
学習施設に活用のため。
設置経過：平成26年1月13日～
12月2日（火）

スタッフ：市民ボランティア



藤 棚

⑤ ユニット・ハウスの設置
位置：大室公園民家園北、小二子古墳南
規模：大・3連棟1棟（5.7m×7.2m）、
小・1棟（5.4m×2.8m）
目的：収蔵展示施設
大室古墳の語り部用
設置日：平成26年10月9日

⑥ 来年度に向けて
今年度は、初年度のため手探り状態で進
行させた。来年度は、一層の施設整備を
図るとともに、有効活用を図って行きた
い。平成27年度は平成26年度事業を

ベースとしながらも、より市民が文化財
に興味を抱ける事業を計画し、実現し、
文化財保護思想の啓蒙を積極的に図って
いきたい。

(7) 大室古墳群公開イベント 2014

平成26年度に整備事業の完了した大
室古墳群を歴史遺産として広く市民に周
知し、活用促進を図り、もって文化財の愛
護精神の高揚を図ることを目的に本イベ
ントを開催した。今年度で10回目となる。

①イベント名称

「大室古墳群公開・普及イベント 2014
ワクワク☆大室古墳群！」

②開催日時：平成26年6月8日（日）

③会場：前橋市大室公園内

④イベント内容

(1) 古墳見学会

市民ボランティア解説員「大室古墳
(つか)の語り部」による大室古墳群の
見学会。

(2) 古代体験イベント

勾玉づくり、火おこし体験、ペーパ
ークラフト、座縁体験、桑の木紺丁、
藤クラフト、ふかしまんじゅう体験

(3) バーチャル大室古墳群

東京福祉大学教育学部柴田研究室
が開発した3D映像による大室古墳群
の映像の上演

(4) 制作品展示

2期6カ年でこれまで制作した市
民プロジェクトの制作品の展示。

(5) 古墳めぐりスタンプラリー

(6) 観光物産品等の販売

当日は悪天候にもかかわらず、
1,200人近くの見学者及び参加者が
あった。アンケートにも「勉強もでき
て楽しかった」などの意見があり、イ
ベント開催について概ね好評が得ら
れた。



古代体験イベント

(8) 大室古墳群市民ボランティア解説員の活動（大室古墳の語り部）

市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し発足し、9年が経過した。

現在活動中の市民ボランティアは8名、ほとんどが地元在住で、地元にまつわるエピソードなども盛り込みながら案内・解説を行っている。

春から秋にかけての定期説明会の他、団体や個人から見学依頼を受けて大室古墳群の案内を行っている。他に大室イベントや大室古墳の教室への協力など幅広く活動している。定期説明会は、「広報まえばし」や市ホームページでの広報もを行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

① 定例活動（古墳案内等）

（5月～11月の主に第1土曜日）

9時30分から11時頃まで受付、民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けるなど随時案内。一回一時間程度。見学者 計 23名

② 学校・一般団体等の案内

随時受け付け。10団体へ実施。

見学者 計 193名



③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

本年度は、栃木県佐野・足利市方面を訪れ、史跡や案内の手法について学んだ。



野外研修（足利学校）

(9) 文化財修復補助等

前橋市郷土芸能連絡協議会補助金、文化財保存事業補助金（荒砥史談会・総社地区史跡愛好会）を交付した。

(10) 文化財調査事業

① 平成26年度前橋市内建造物調査

「都丸家住宅」調査委託

○調査主旨

総社町総社の山王地区に所在する旧幕臣小栗上野介忠順が旧倉渕村に建造したとされる（上棟後間もない未完成な住いを移築したもの）構造物について、文化財的な観点から建造物調査を行い、岡面作成を行う。加えて敷地内他の構造物の配置図を作成し、幕末から昭和にかけて「製糸の町、生糸の町」前橋の蚕糸業を支えてきた養蚕農家群や蚕糸業に係る建造物群に関する歴史上重要な遺構群のデータを記録の収集を目的とし実施した。

調査から以下4点の痕跡が明らかになった。

i) 小屋組みに新旧材が混在していることから、改修があったことを示している。

ii) 2階は、当初、壁が立つところがあり、開口も南面のみであることがわかった。

iii) 構も当初のものではなく、後補である。

iv) 屋根勾配を4寸勾配から現在の5寸勾配に変えている。

これらのことより、報告書では以下のことが報告された。

・口伝にあるように、建替え、改築の跡が認められる。

・9間取りという大きな家であり、式

台、ナカロウカをもち、一般的な農家ではなく、県内の例からも比較的格式のある特別な家柄の家と考えられる。

- ・客間の間口の寸法より、幕末～明治初期の建物の特徴を示している。
- ・屋根の勾配から、当初は板葺きの建物であったと考えられる。板葺きの建物は、前橋地区では殆ど見られない。甘楽・多野から利根・吾妻・碓井地域に見られる。

なお、現地（旧倉渕村）に残る伝小栗屋敷跡（高崎市指定史跡）の礎石調査を行ったところ、建物礎石と一部一致する箇所があるが、結論としては、『推測』城を出るものではないとされた。

○物件所在地

前橋市総社町総社 2784 番地ほか

○物件所有者

○調査委託先

(特非) 景観建築研究機構

○調査期間

平成 26 年 12 月 1 日

～平成 27 年 3 月 10 日

② 前橋市内歴史的建造物調査「本間家主屋及び北蔵等」調査委託

○調査主旨

総社町総社に所在する「本間酒造」敷地内構造物について、文化財的な観点から建造物調査等を行い、図面作成及び敷地内他の構造物の配置図を作成する。本文化財は、幕末から昭和にかけて「製糸の町、生糸の町 前橋」の養糸業を支えてきた養糸農家群や蚕糸業に係る建造物群ではないが、本市の繁栄を今に伝える重要な歴史的建造物である。本物件は 26 年度に前橋市に寄附されたことを受け、本事業により歴史上重要な建造物及び遺構群のデータの記録収集を行い、「製糸のまち町 生糸の町前橋」の関連事項として活用することを目的とし、実施した。

調査では、以下 5 点により地域の歴史を伝える重要な遺構であると報告を受けられた。

- i) 主屋は商家としての特徴を有した建物であり、旧佐渡奉行街道総社宿に残る大正期の町家建築である。

ii) 酒造蔵等は当時の酒造りの工程を行うことができる建物である。

iii) 前橋市内で現存する数少ない造り酒屋の建物である。

iv) 総社町のランドマークとなっている建物である。

○所在地

前橋市総社町総社 1500 番地ほか

○物件所有者

前橋市

○調査委託先

(特非) 景観建築研究機構

○委託調査期間

平成 27 年 2 月 9 日～

平成 27 年 3 月 20 日

③ 前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

○調査主旨

前橋地域は、幕末から昭和にかけて製糸の町、生糸の町として発展してきた。特に幕末から明治初めの製糸業における前橋藩や旧前橋藩士の活躍は特筆されるものがあり、加えて、前橋の生糸商人達の活躍も、その後の前橋発展の歴史に欠くことが出来ないものである。これら歴史的な意義については、前橋市史等で既にまとめられている。しかし、市史編纂から 40 年以上が経過し、その足跡を伝える多くの遺構は、その後の開発、産業構造の劇的な変化などにより、その多くを消失してしまった。しかし、周辺には、現在でも前橋の製糸業を支えた養蚕農家群や蚕糸業に係る遺構が残されている。これら前橋市の歴史上重要な遺構を調査し、記録に留めると共に後に正確に伝え、前橋地域における蚕糸業の重要性を再評価するとともに、広く県内外に周知する機会とするために「前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物群等調査委員会」を設立し、これら前橋の蚕糸業に係る総合的な調査を実施することとした。

今年度は、委員会を立ち上げ、27 年度から実施される「旧塩原蚕種主屋及び敷地内構造物等調査」(田口町甲 472 番地)についての確認がされた。

○実施期間

平成26年度より5カ年を予定

○構成員

石井寛治顧問（東大名誉教授）
 大野 敏委員（横浜国立大学教授）
 岡田昭二委員（群馬県立文書館嘱託）
 西川武臣委員（横浜開港資料館副館長）
 宮崎俊弥委員（元前橋国際大学教授）
 村田敬一委員（県文化財保護審議会専門員）

○調査計画

本調査は5カ年計画での実施を目標に、以下一覧表を日安に進めていきたい。

計画年次	調査	内容
1年次	事前調査	委嘱式及び現地視察（塩原蚕種）
2・3年次	塩原蚕種に係る調査	「蚕糸業遺構調査（塩原蚕種建造物調査）」 ・建造物調査 ・建造物に關係する部分の報告書作成
		「関連文献調査」 ・塩原蚕種にかかる文献調査
		「聞き取り調査」 ・塩原蚕種所有者及び関係者を対象に物件の歴史や活用状況、活動範囲等について詳細な聞き取りを行う。
	検討・計画	・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
4年次	蚕糸業に係る調査	市内に残る蚕糸業に係る遺構関係調査 ・市内の蚕糸業関連遺構の全体把握 ・蚕糸業関連遺構紋込みと詳細調査等
		市内蚕糸業にかかる文献調査 ・個人及び区有、公的機関等に收藏されている関係資料の調査、収集を実施する。

		・調査物件の過去の資料、既往の研究等から調査物件の歴史的意義や価値、変遷過程に関する調査 等
	検討・計画	・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
5年次	報告書作成	・報告書作成に当たって、必要に応じ、隨時補足調査を行い、調査内容の充実を図る。
	報告書作成	・4カ年にわたりて実施した調査内容を報告書として編集する。 ・調査票、野帳などを取りまとめものを、専門部会及び委員会により精査し、報告書の内容を確認していく。

第4章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成26年度の発掘調査をふりかえって

1) 発掘調査事業

今年度は、平成26年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示したとおり37遺跡・事業数にして15件の発掘調査を実施した。調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確認調査が1遺跡(1件)、公共開発が30遺跡(8件)、民間開発が6遺跡(6件)である。このうち、保存目的の調査1遺跡および公共開発に伴う11遺跡の調査を直営で実施し、他はすべて民間調査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は51,776m²で、うち保存目的の調査が624m²、公共開発に伴う調査が11,449m²、民間開発に伴う調査が39,703m²であった。直営で行った調査は4,026m²、官民委託は8,047m²、民民委託は39,703m²であった。

以下に各調査について概観してみる。

①上野国府等範囲内容確認調査

5ヶ年計画の4年次にあたる上野国府等範囲・内容確認調査は、今年度は国府関連施設の検出と大溝の範囲確認を目的に、6地点で10箇所のトレンチを設定して調査を行った。うち2箇所は、土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(99)の調査で検出した建物基礎と考えられる掘込地業の範囲を確認するために設けたトレンチであり、これを除くと、4箇所のトレンチから建物跡や区画溝など、国府に関連すると考えられる遺構を検出することができた。

その検出位置および内容を見てみると、まず、宮鍋神社南西約70m地点の28トレンチから、長方形の枠状に掘り込まれた溝を埋め立てて布地業を施した建物基礎跡を検出した。

また、元総社小学校校庭内の30トレンチから、壇地業跡と考えられるピット4基が桁行方向に3基、梁行方向に2基並び状況を検出した。周辺は搅乱が激しく全体像を捉えることはできなかったが、桁行4間以下の礎石建ち側柱建物が想定される。

さらに、区画溝と考えられる遺構は、蒼海城本丸南東隅の29トレンチから南北方向の溝跡1条、元総社小学校校庭内の30トレンチから南北方向の溝跡1条、および元総社小学校西側の31トレンチから東西方向の溝跡1条を検出した。

建物跡については、区画整理事業に伴う発掘調査において、先述の元総社蒼海遺跡群(99)の掘込地業のほかに、宮鍋神社の南方約200m地点の元総社蒼海遺跡群(95)から、掘立柱建物跡を2棟検出しており、今年度は計5棟の建物跡を検出した。

これまで長期に亘り元総社蒼海遺跡群の発掘調査を実施してきたに関わらず、検出された官衙的建物跡が元総社公民政敷地内の大型掘立柱建物跡1棟のみであったことを考えると、急速に調査が進展したと言えよう。

今年度検出した建物跡は、元総社小学校校庭内を除くと、すべて国府推定域C案の中およびその周辺に位置する。これまでこの近辺で元総社蒼海遺跡群の発掘調査を行っていたが、中世蒼海城の造成による旧地表面の削平が著しいという状況がある。区画溝についても、29トレンチで検出した南北方向の溝跡は、上野国府調査6トレンチ等で確認している大溝の続きと考えられ、その規模は著しく矮小となるものの、南北方向へと延長することが確認できた。区画溝の矮小化は、蒼海城造成時の削平により上半のほとんどが失われた結果なのか、溝自体の規模が縮小した結果なのかも然としないが、いずれにしても地山の深部まで蒼海城築城の際の削平が及んでおり、それが国府関連遺構の検出を困難にしている状況を物語っている。あるとすると、トレンチ調査により国府関連遺構を確認できなかつたとしても、それがイコール「存在しない」とは言い切れないことになる。周囲の中という不利な条件を抱えながらも、少しでも多くの調査面積を稼ぎ、確実なデータを拾っていくという作業が、今後は必要となってくる。

また、溝跡等の区画施設と考えられる遺構についても、たとえ国府関連建物遺構が失われていたとしても、国府域内の土地利用や施設配置を復元できる材料となる可能性があるため、これまでの調査データの再整理と検討が必要になると考えられる。

②元総社蒼海遺跡群(74)～(85)・(88)～(103)

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群の発掘調査は、今年度28地点で調査を実施し、うち直営が11地点3,402m²、委託が17地点5,297m²であった。

(81)・(85)・(91)・(97)は一連の遺跡で、古墳時代から平安時代にかけての集落を検出した。10世紀代の住居が最も多いが、(81)からは方形周溝式と考えられる方形に廻る溝を検出している。また、(91)では、10世紀代の竪穴住居床面から金箔を貼った小金銅仏が出土し、既にこの時期、一般民衆へ仏教が浸透していたことを示す好資料となる。

上野国府の項でも述べたが、(95)で掘立柱建物跡2棟と、(99)で建物基礎と考えられる掘込地業跡を検出し、ともに国府関連施設と考えられる。

(95)では、若干、軸が異なる2棟の掘立柱建物跡が重複して検出され、その北側から掘立柱建物と軸を備えた東西方向の溝跡が、また東側からほぼ正方

位の南北方向の溝跡が検出された。溝跡はとともに区画施設と考えられるが、掘立柱建物跡との関係は不明である。

(99)の掘込地業跡は、枠状の布地業と、その中に入れ子状に納まつた方形の純地業の2つの基礎地業跡であり、時期差があるものと考えられる。枠状の布地業は、上野国府調査28トレチの布地業と共に通するが、他に類例がなく、建物構造やその性格については今後の検討を要する。

(100)では方形周溝墓と考えられる直交する2条の溝跡を検出した。先述の(81)や、昨年度方形周溝墓を検出した(62)にも近く、一帯に方形周溝墓群の存在が想定できる。

(101)では6~9世紀代の掘立柱建物跡と考えられる柱穴跡を検出した。建物範囲は調査区外まで広がっており、全体規模は不明。柱間がやや不規則ではあるが、側柱建物が想定できる。国府との関連は不明である。

③南部拠点遺跡群(10)・(11)

平成25年度末から26年度当初にかけて21,372m²の調査を実施し、古墳時代前期の集落およびAs-B下水田を検出した。

古墳時代前期の集落はAS-C下位以下、浅い谷地の両岸に小規模に営まれていた。集落を構成する住居は外周溝を廻らす平地式住居と考えられ、前橋台地南部の低地帶で比較的多く認められるタイプである。当該期の水田跡は検出できなかったが、前橋台地における初期水田開発を担った人々の居住形態を示す資料が得られた。

As-B下から検出した平安時代の水田跡は、これまで周辺諸遺跡で捉えられていた条里型地割りと整合し、大畦畔の走向・間隔ともに合致することが認められた。その一方で、この区画基準とは異なる南北大畦畔も検出され、さらに隣接遺跡でも、110mほどの間隔を置いて平行する南北大畦畔が検出されている。この基準の異なりについては今後の検討を要する。

また、大畦畔の下位から大畦畔と走向・位置を同じくし、条里型地割りの前身と想定される溝跡を検出した。溝跡内からは8世紀代の上器が出土しており、前橋台地における条里型水田の施行時期を考えるうえで示唆的な資料が得られた。

④五代深堀I遺跡No.2

工場誘致に伴い、平成26年7月から8月にかけて2,290m²の調査を実施し、縄文時代中期の堅穴建物跡6軒、土坑124基、ピット34基、および奈良~平安時代にかけての堅穴建物跡6軒、掘立柱建物跡1棟、鍛冶遺構1基を検出した。

縄文時代の堅穴建物と土坑群は、西側に位置する

五代伊勢宮IV・VI遺跡から続く同一の環状集落の可能性が高いが、五代伊勢宮VI遺跡の堅穴建物・土坑群と併せると8の字状の分布を示すため、近接した2つの環状集落が存在した可能性も考えられる。

出土した上器は全て中期中葉に収まり文様構成からは阿玉台Ib・II・III式、勝坂II・III式、新巻類型、焼町類型、三原川類型、人木8a式の特徴が認められる。中でも阿玉台Ib・II式、勝坂II・III式、焼町類型は文様構成要素がまとまっており、比較的形式として捉えやすく、各形式の共伴関係を窺う好資料が得られた。

奈良~平安時代では銅製丸硝や転用硯、灰釉陶器、墨書き土器等の特徴的な遺物の出土が見られ、鉄製品鍛錬のための施設と考えられる鍛冶遺構と共に奈良~平安時代における本遺跡の特異性が窺われる。

⑤六供遺跡群No.8

区画整理事業に伴う道路新設部分460m²について、平成26年8月中旬に調査を実施し、古墳時代中期から後期の堅穴住居1軒、近世以降の溝跡5条、戸井跡5基、時期不明の溝跡1条を検出した。

近世以降の井戸跡の1基は、方形の池状の落ち込みの底面に掘り込まれ、池状の落ち込みには水口状の済みが敷設されていることから「溜井」と考えられる。また近世以降の溝跡は近世の環濠屋敷を廃棄する構とと考えられ、「溜井」と共に近世以降のこの近隣に當まれた旧家の実態を示す資料となろう。

⑥川曲地蔵前遺跡No.3

店舗建設に伴い、平成26年11月から27年1月にかけて7,938m²の調査を実施し、奈良~平安時代の大溝跡、大溝、および中・近世の水田跡、溝等を検出した。このうち奈良~平安時代の大溝は、上幅5m、深さ1.5mの規模を有しており、堆積土の状況から水路と認められ、条里型地割に従ってランクしながら南北西方向へ流下してゆく状況が想定される。覆土下層からは8世紀後半から9世紀にかけての土器が出土しており、「物」墨書きされた須恵器や刀子、及びその木製鞘、人骨、馬骨等が認められた。

出土遺物から想定される大溝の年代は、前橋台地における条里型地割の施行時期と合致しており、条里水田を灌漑するための用水路の可能性が窺える。古代の前橋台地の開発を考える上で、示唆を与える遺構の一つとなると思われる。

⑦朝倉工業団地遺跡群No.7

工場増築に伴い平成26年12月中旬に調査を実施した。現状保存不可能な地下蓄熱槽部分を中心とした370m²の範囲から、平安時代のAs-B下水田跡とその下位から溝跡1条、および中世以降の溝跡2条を検出し

た。

中世の溝跡は条理地割を踏襲するようで、As-B下水田の南北畔と並走している。

As-B下水田下位の溝跡は、弘仁9(818)年と考えられる洪水砂によって埋没しており、条理地割りとは異なる走向であった。

2) 台帳整備事業

平成25年度中に群馬県教育委員会へ改訂を申請していた、群馬県統合型地理情報システム「マッピングぐんま」掲載の周知の埋蔵文化財包蔵地情報が平成26年6月中に更新された。これに伴い、文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財包蔵地における土木工事の届出が大幅に増加したことは、4)開発に伴う事前協議の項に記したとおりである。なお、26年度の発掘調査及び試掘調査実施箇所等のデータは、9月と2月の毎旬に遺跡地図に加筆した。また包蔵地の範囲変更が生じた場合は、随時、県の情報システム上に反映されるよう、データ改訂を申請している。

3) 資料整備事業

普及関係 小学校高学年児童を対象とした埋蔵文化財普及パンフレット『い・せ・きワールドin 前橋2015』を刊行し、市内小学校に配布した他、一般配布用として公民館等の公共施設にも配布した。

埋蔵文化財発掘調査現地説明会は、元総社小学校校庭における上野国府範囲内容確認調査の成果を、元総社小学校高学年児童を対象として、8月27日(水)に実施した。また、元総社蒼海遺跡群(96)の現地説明会を、元総社歴史を学ぶ会を中心とした地元関係者を対象に、9月5日(金)に実施した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展における展示のほか、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフォレストにおいて出土資料の貸出しや展示替えを行った。

資料整備 文化財保護課移転に伴い、二俣庁舎に収蔵してあった埋蔵文化財調査資料を鳥羽収蔵庫へ移転した。収蔵資料は出土遺物のほかに写真資料や図面類もあり、出土遺物だけでコンテナ一パットに換算して18,000箱以上に及ぶ膨大な量であった。移転に際しては、地区別に部屋を分けて出土遺物等を収蔵し、資料検索が容易となるように配慮した。ただし、3月中の移転だったため、収蔵資料の整理を全て完了することができず、平成27年度以降も引き続いて収蔵資料の整理を行う予定である。

遺物整理 過年度未整理遺跡である堀越甲真木B地点遺跡の旧石器について、器種認定および接合作業、実測を行った。実測作業は本年度中に完了できなかったが、27年度は残りの実測およびトレースを行い、

報告書を刊行する予定である。

4) 開発に伴う事前協議

土木工事予定地等に係る埋蔵文化財包蔵地の照会は年々件数が増加しており、本年度は2,533件の照会に対応した。このうち、包蔵地内において土木工事を行うときに提出される文化財保護法第93条第1項の届出は319件であった。例年120件程度であり、飛躍的な増加が見られた。これは、平成15年度から24年度まで実施した遺跡分布調査事業の成果に基づき、平成25年3月に刊行した『前橋市遺跡分布地図』の情報を県のシステムに反映させた結果、周知の埋蔵文化財包蔵地が大幅に拡大したためである。

試掘・確認調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地において遺跡を破壊する恐れがある工事が予定されている場合や、包蔵地外においても大規模な店舗や病院等の建設工事、道路敷設工事を行う場合に実施した。試掘・確認調査実施件数は65件であり、このうち5件が発掘調査に移行した。その他、各種工事中の立会調査を54件実施した。

(2) 平成26年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	ふりがな	コード	代表地番	面積(㎡)	方式	調査方法	調査期間
1 上野国府跡範囲確認調査	こうずけごくふ	26A147	元禄町1211	624	直営	範囲確認	26/5/23~26/12/24
2 元総社蒼海遺跡群 (74)	もとそうじやおうみ	26A168	鈴町跡3051 11	166	委託	区画整理	26/9/26~26/12/18
3 元総社蒼海遺跡群 (75)	もとそうじやおうみ	26A169	元禄町1375	118	委託	区画整理	26/11/10~26/12/8
4 元総社蒼海遺跡群 (76)	もとそうじやおうみ	26A173	元禄町1419-3	132	委託	区画整理	26/10/20~26/11/11
5 元総社蒼海遺跡群 (77)	もとそうじやおうみ	26A174	元禄町2181	98	委託	区画整理	27/1/8~27/1/19
6 元総社蒼海遺跡群 (78)	もとそうじやおうみ	26A175	鈴町跡3087-1	399	委託	区画整理	26/12/14~27/03/27
7 元総社蒼海遺跡群 (79)	もとそうじやおうみ	26A176	元禄町1335	649	委託	区画整理	27/1/24~27/3/31
8 元総社蒼海遺跡群 (80)	もとそうじやおうみ	26A177	元禄町1329-1	704	委託	区画整理	27/2/3~27/3/13
9 元総社蒼海遺跡群 (81)	もとそうじやおうみ	26A178	鈴町跡31113 1	1,204	委託	区画整理	26/11/17~27/2/9
10 元総社蒼海遺跡群 (82)	もとそうじやおうみ	26A179	鈴町跡3600 12	109	委託	区画整理	26/9/3~26/10/4
11 元総社蒼海遺跡群 (83)	もとそうじやおうみ	26A180	鈴町跡3600-3	246	委託	区画整理	26/9/3~26/10/4
12 元総社蒼海遺跡群 (84)	もとそうじやおうみ	26A181	元禄町1445-22	109	直営	区画整理	26/10/1~26/11/8
13 元総社蒼海遺跡群 (85)	もとそうじやおうみ	26A182	鈴町跡3107	483	直営	区画整理	26/6/2~26/8/5
14 元総社蒼海遺跡群 (88)	もとそうじやおうみ	26A185	鈴町跡3127	50	直営	区画整理	26/5/20~26/5/22
15 元総社蒼海遺跡群 (89)	もとそうじやおうみ	26A186	元禄町2178-1	73	直営	区画整理	26/5/27~26/6/4
16 元総社蒼海遺跡群 (90)	もとそうじやおうみ	26A187	元禄町1338-1	69	直営	区画整理	26/5/23~26/5/29
17 元総社蒼海遺跡群 (91)	もとそうじやおうみ	26A188	鈴町跡3051-11	219	直営	区画整理	26/5/23~26/6/20
18 元総社蒼海遺跡群 (92)	もとそうじやおうみ	26A183	元禄町2172-3	102	委託	区画整理	27/1/8~27/1/18
19 元総社蒼海遺跡群 (93)	もとそうじやおうみ	26A184	鈴町跡2136	78	委託	区画整理	27/2/27~27/3/8
20 元総社蒼海遺跡群 (94)	もとそうじやおうみ	26A189	元禄町2134 3	45	委託	区画整理	27/2/14~27/2/26
21 元総社蒼海遺跡群 (95)	もとそうじやおうみ	26A190	元禄町2099	942	直営	区画整理	26/7/8~26/9/5
22 元総社蒼海遺跡群 (96)	もとそうじやおうみ	26A191	鈴町跡31111 1	47	直営	区画整理	26/7/15~26/7/17
23 元総社蒼海遺跡群 (97)	もとそうじやおうみ	26A192	元禄町2095 1	927	直営	区画整理	26/7/23~26/11/13
24 元総社蒼海遺跡群 (98)	もとそうじやおうみ	26A193	鈴町跡3051 11	286	直営	区画整理	26/9/3~26/9/26
25 元総社蒼海遺跡群 (99)	もとそうじやおうみ	26A195	鈴町跡3051-11	260	直営	区画整理	26/9/22~26/12/24
26 元総社蒼海遺跡群 (100)	もとそうじやおうみ	26A196	鈴町跡3589	274	委託	区画整理	26/12/18~27/02/09
27 元総社蒼海遺跡群 (101)	もとそうじやおうみ	26A197	元禄町1378-1	250	委託	区画整理	26/12/24~27/3/16
28 元総社蒼海遺跡群 (102)	もとそうじやおうみ	26A198	元禄町1920	58	直営	区画整理	27/1/14~27/1/23
29 元総社蒼海遺跡群 (103)	もとそうじやおうみ	26A200	元禄町1693-1	470	委託	区画整理	27/3/2~27/4/24
30 南部発点地点遺跡群No. 7	あさくらこうぎょうだんち	26G88	下ノ馬町1001-2	370	委託	T字型建設	26/1/2~26/12/17
31 南部発点地点遺跡群No. 10	なんぶきょよん	26G84	鶴光源町113-2	9,850	委託	区画整理	26/3/10~26/5/24
32 南部発点地点遺跡群No. 11	なんぶきょよん	26G85	危里町963-2	11,522	委託	区画整理	26/4/2~26/5/23
33 五代深堀 No. 2	ごだいふかほりいち	26G25	八代町1081-1	2,290	委託	区画整理	26/7/7~26/8/29
34 川由地蔵前遺跡 No. 3	かわゆじぞうぜき	26A194	川由町60-3	7,938	委託	区画整理	26/11/1~27/1/9
35 六供遺跡群 No. 8	ろくく	26G57	六供町299-2	460	委託	区画整理	26/8/4~26/8/29
36 朝倉・後園水田遺跡	あさくら・ごかんすいでん	26G87	朝倉町389-1	6,940	委託	病院建設	27/1/28~27/4/18
37 鮎町跡付近遺跡群 No. 1	そうじやまわかいはた	26A199	鯰町跡594	150	委託	造成工事	27/3/9~27/3/27

(3) 平成26年度 埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	准定上野国府	上野国府跡	前橋市教育委員会	H27.3.13	
2	元総社蒼海遺跡群 (85)・(88)～(90)・(98)～(98)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	H27.3.27	
3	元総社蒼海遺跡群 (91)・(95)・(102)	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	H27.3.27	
4	元崎社菖蒲遺跡	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	H26.7.31	
5	西新井遺跡第4地点	西新井遺跡	前橋市教育委員会	H26.7.31	
6	朝倉・美田団地遺跡群 No. 7	朝倉・美田団地遺跡	前橋市教育委員会	H27.3.20	
7	南部発点地点遺跡群 No. 10	南部発点地点遺跡	前橋市教育委員会	H26.9.30	
8	南部発点地点遺跡群 No. 11	南部発点地点遺跡	前橋市教育委員会	H26.9.30	
9	五代深堀遺跡 No. 2	五代深堀遺跡	前橋市教育委員会	H27.3.10	
10	六供遺跡群 No. 8	六供遺跡群	前橋市教育委員会	H26.12.19	

(4) 平成26年度 立会調査一覧表

所 在 地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1 西片町二丁目	2,057	有料老人ホーム建設	H26. 4. 4	埋蔵文化財検出なし
2 新堀町	5	広告塔建設	H26. 4. 8	埋蔵文化財検出なし
3 岩町町二丁目	8,836	特別養護老人ホーム建設	H26. 4. 9	埋蔵文化財検出なし
4 開根町	600	個人住宅建設(複数)	H26. 5. 14	埋蔵文化財検出なし
5 柏倉町	500	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 5. 26	埋蔵文化財検出なし
6 領町	537	駐車場用地造成工事	H26. 6. 5~6. 6	埋蔵文化財検出なし
7 前箱田町二丁目	266	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 6. 19	埋蔵文化財検出なし
8 猪川町中	2	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 6. 19	埋蔵文化財検出なし
9 輝倉町	2	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 7. 1	埋蔵文化財検出なし
10 後閑町	2	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 7. 14	埋蔵文化財検出なし
11 俊木町	3	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 7. 14	埋蔵文化財検出なし
12 上新田町	1,945	宅地造成	H26. 7. 18	埋蔵文化財検出なし
13 荒子町	984	海壁設置	H26. 7. 22	埋蔵文化財検出なし
14 泉沢町	431	上水道接続	H26. 7. 23	埋蔵文化財検出なし
15 六供町	368	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 8. 4	埋蔵文化財検出なし
16 元絶社町	968	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 8. 20	埋蔵文化財検出なし
17 萩窪町	334	個人住宅建設(基礎工事・合併浄化槽)	H26. 7. 8~9. 1	埋蔵文化財検出なし
18 荒口町	324	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 9. 1	埋蔵文化財検出なし
19 上泉町	536	堆肥設置、店舗建設	H26. 9. 2	埋蔵文化財検出なし
20 絶社町植野	176	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 9. 3	埋蔵文化財検出なし
21 荒口町	324	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 9. 17	埋蔵文化財検出なし
22 駒形町	1,716	建売分譲住宅建設	H26. 10. 2	埋蔵文化財検出なし
23 小坂子町	951	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 10. 15	埋蔵文化財検出なし
24 順町	537	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 10. 16	埋蔵文化財検出なし
25 元絶社町	154	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 10. 20	埋蔵文化財検出なし
26 大前田町	541	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 10. 21	埋蔵文化財検出なし
27 富士見町田島	333	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 10. 24	埋蔵文化財検出なし
28 二之宮町	300	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 10. 27	埋蔵文化財検出なし
29 六供町	843	老人ホーム建設	H26. 11. 12	埋蔵文化財検出なし
30 富士見町時沢	500	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 11. 12	埋蔵文化財検出なし
31 絶社町絶社	1,308	個人住宅兼工場建設	H26. 11. 12	埋蔵文化財検出なし
32 鳥羽町	288	貯留浸透施設建設	H26. 11. 12	埋蔵文化財検出なし
33 上佐鳥町	374	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 11. 18	埋蔵文化財検出なし
34 勝沢町	304	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 11. 19	堅穴住居跡・土師器片
35 亀里町	293	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 11. 20	埋蔵文化財検出なし
36 元絶社町	1,010	個人住宅建設(塗入替え)	H26. 11. 27	埋蔵文化財検出なし
37 通越町	333	個人住宅建設(合併浄化槽)	H26. 11. 27	埋蔵文化財検出なし
38 壱土井町	600	個人住宅建設(基礎工事)	H26. 11. 27	埋蔵文化財検出なし
39 鶴光路町	6,608	住宅展示場建設(合併浄化槽)	H26. 12. 1	埋蔵文化財検出なし
40 小星原町	2,159	店舗建設	H26. 12. 26	埋蔵文化財検出なし
41 勝沢町	368	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 1. 8	埋蔵文化財検出なし
42 俊木町	311	個人住宅建設(基礎工事)	H27. 1. 13	埋蔵文化財検出なし
43 銚町	658	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 1. 14	埋蔵文化財検出なし
44 絶社町植野	165	個人住宅建設(基礎工事)	H27. 1. 15	埋蔵文化財検出なし
45 高井町一丁目	4,272	店舗建設	H27. 2. 5	埋蔵文化財検出なし
46 俊木町	331	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 2. 17	埋蔵文化財検出なし
47 富士見町時沢	1,850	貨通所介護等施設建設	H27. 2. 18	埋蔵文化財検出なし
48 亀里町	316	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 2. 19	埋蔵文化財検出なし
49 開根町	600	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 3. 2	埋蔵文化財検出なし
50 上佐鳥町	305	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 3. 6	土師器片
51 池端町	555	農業用物置建設	H27. 3. 9	埋蔵文化財検出なし
52 小坂子町	168	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 3. 10	埋蔵文化財検出なし
53 絶社町女籠	576	個人住宅建設(合併浄化槽)	H27. 3. 17	埋蔵文化財検出なし
54 二之宮町	331	個人住宅建設(基礎工事)	H27. 3. 30	埋蔵文化財検出なし

(5) 平成26年度 試掘・確認調査一覧表

所 在 地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1 川曲町	21,396	店舗建設	H26. 4. 14~4. 16	平安時代の水田跡
2 大友町一丁目	1,511	農業共済会館建設	H26. 4. 21~4. 22	遺構の検出なし
3 六供町	1,570	土地区画整理に伴う道路工事	H26. 4. 23~4. 25	時期不詳の滑跡、古墳時代の住居跡。古墳時代の土師器片
4 上新田町	2,014	サービス付き高齢者向け住宅建設	H26. 5. 7	平安時代の水田跡、時期不詳の機跡
5 稲荷新田町	999	宅地造成	H26. 5. 8	平安時代の水田跡
6 桶越町	3,552	前橋広域消防本部東消防署事務所建設工事	H26. 5. 15	遺構の検出なし
7 元総社町	780	土地区画整理事業	H26. 5. 19	遺構の検出なし
8 青柳町	8,859	店舗建設・道路建設	H26. 5. 19~5. 22	遺構の検出なし
9 五代町	10,097	工場建設	H26. 6. 2~6. 5	绳文時代の住居跡・土坑跡、古墳時代の住居跡・土坑跡、绳文土器、壺型、石器、石斧、石皿
10 総社町総社	826	保育園建築工事	H26. 6. 9	遺構の検出なし
11 荒子町	1,828	中学校体育館建築工事	H26. 6. 16	遺構の検出なし
12 鶴光路町	10,090	店舗建設工事	H26. 6. 23~6. 24	古墳時代の土坑跡。右出川式土器片、和泉式土器片、土師器片、須恵器片、布目瓦
13 本町一丁目	86	個人住宅建築工事	H26. 6. 26	遺構の検出なし
14 北代田町	4,960	宅地造成	H26. 7. 1~7. 2	中近世の溝跡、時期不詳の機跡5条。須恵器片、内耳上器片
15 川曲町	1,511	ガソリンスタンド建築工事	H26. 7. 2	平安時代の水田跡
16 小屋原町	1,800	道端新設	H26. 7. 15	遺構の検出なし
17 烏取町	1,766	店舗建築工事	H26. 7. 16	時期不詳の溝跡
18 青梨子町	2,719	店舗建築工事	H26. 7. 22	遺構の検出なし
19 富士見町原之郷	1,750	宅地造成	H26. 7. 25	遺構の検出なし
20 下新田町	2,103	宅地造成	H26. 7. 31	遺構の検出なし
21 占市町	11,052	店舗建築工事	H26. 8. 5	古墳時代の水田跡、平安時代以前の溝跡3条
22 青柳町	1,479	宅地造成	H26. 8. 13	遺構の検出なし
23 五代町	2,964	有料老人ホーム等建築工事	H26. 8. 19	時期不詳の上坑跡
24 富士見町時沢	1,443	宅地造成	H26. 8. 20	遺構の検出なし
25 江木町	386	個人住宅建築工事	H26. 8. 21	遺構の検出なし
26 東晉町	594	個人住宅建築工事	H26. 8. 21	時期不詳の溝跡
27 元総社町	123	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業における宅地造成工事	H26. 8. 28	時期不詳の滑跡、古代の井戸跡。古代の土師器片
28 富士見町時沢	1,850	貸通所介護等施設建築工事	H26. 9. 4	平安時代住居跡、時期不詳の上坑・ピット。平安時代の土師器・須恵器・金属製物罐車
29 青柳町	1,071	宅地造成	H26. 9. 5	遺構の検出なし
30 富士見町小暮	2,187	宅地造成	H26. 9. 11	遺構の検出なし
31 青梨子町	435	個人住宅建築工事	H26. 9. 24	遺構の検出なし
32 上青梨子町	334	個人住宅建築工事	H26. 9. 24	H r-F A (縦名ニツ岳火山灰) 降下以降の溝跡
33 横沢町	8,109	太陽光発電施設建設工事	H26. 9. 30~10. 2	平安時代住居跡、時期不詳の上坑跡
34 下新田町	1,216	宅地造成	H26. 10. 3	浅間B斜石降下以前の溝跡

35	朝倉町	137,788	病院建築工事	H26.10.8~10.20 雨天日除く	平安時代の水田跡
36	總社町總社	995	宅地造成	H26.10.28	遺構の検出なし
37	元總社町	740	アパート建築工事	H26.10.28	遺構の検出なし。布目瓦片
38	北代田町	2,487	宅地造成	H26.10.29	遺構の検出なし
39	總社町桜が丘	1,572	宅地造成	H26.11.4	古代の住居跡、時期不詳の溝跡、ピット。土師器片
40	幸塚町	851	アパート建築工事	H26.11.5	遺物包含層確認。縄文土器片
41	東善町	11,862	倉庫建築工事	H26.11.10~11.11	平安時代の水田跡
42	江田町	1,452	宅地造成	H26.11.28	古墳時代の水田跡、時期不詳の溝跡
43	横沢町	2,017	宅地造成	H26.12.3	遺構の検出なし
44	青柳町	926	宅地造成	H26.12.9	遺構の検出なし
45	總社町植野	16,000	宅地造成	H26.12.15~12.17	古墳時代住居跡。古墳時代の土師器片、須恵器片
46	上新田町	5,123	宅地造成	H26.12.22	遺構の検出なし
47	船川町深津	330	資材置場	H27.1.19	遺構の検出なし
48	宮地町	13,783	宅地造成	H27.1.21~1.22	平安時代の水田跡
49	總社町總社	320	個人住宅建築工事	H27.1.26	遺構の検出なし。須恵器片
50	總社町總社	1,800	工場建設	H27.2.3~2.4	古墳時代の住居跡。縄文土器片、古墳時代の土師器片、平安時代の須恵器片。
51	鼻毛石町	2,335	店舗建築工事	H27.2.10	遺構の検出なし。縄文土器片
52	元總社町	1,827	一戸建て賃貸住宅建築工事	H27.2.12	古墳時代住居跡3軒、時期不詳のピット。古墳時代～平安時代の土師器片・須恵器片
53	茂木町	767	宅地造成	H27.2.16	古墳時代住居跡4軒、縄文時代住居跡、時期不詳のピット
54	總社町總社	551	總社資料館建築工事	H27.2.26	蛇穴山古墳周囲、人頭大轍の配置及び掘込み跡
55	總社町植野	4,061	宅地造成	H27.3.2	遺構の検出なし
56	總社町植野	2,125	宅地造成	H27.3.3	遺構の検出なし
57	總社町植野	2,562	宅地造成	H27.3.3	遺構の検出なし
58	高井町一丁目	229	個人住宅建築工事	H27.3.5	遺構の検出なし
59	二之宮町	453	個人住宅建築工事	H27.3.11	遺構の検出なし
60	二之宮町	346	個人住宅建築工事	H27.3.11	遺構の検出なし
61	西片貝町二丁目	965	宅地造成	H27.3.12	遺構の検出なし。古代の土師器片
62	元總社町	1,491	診療所・サービス付き高齢者住宅建築工事	H27.3.13	遺構の検出なし。布目瓦片
63	南橋町	791	市営住宅建築工事	H27.3.17	遺構の検出なし
64	總社町桜が丘	1,495	アパート建築工事	H27.3.23	遺構の検出なし。縄文土器片
65	堀越町	1,908	有料老人ホーム建築工事	H27.3.25	古墳時代住居跡3軒、平安時代住居跡1軒、時期不詳の溝跡。縄文土器片、古墳時代の土師器片

① 上野国府等範囲内容確認調査 (26A147)



調査位置図

事業名 上野国府等範囲内容確認調査

所在地 前橋市元總社町2127番地1ほか

調査期間 平成26年5月23日から

平成26年12月25日まで

担当者 阿久澤智和

調査面積 624 m²

調査の結果 上野国府は前橋市元總社町付近に設置されたと考えられているが、その中心施設である国府については詳細なため、平成23年度から5ヵ年計画で上野国府の概況を把握することを目的とした「範囲確認調査」を実施している。本年度はその4年目に当たる。

調査の成果 本年度は前年度の調査結果を踏まえ、同区域の区画溝の可能性がある古代の大溝の解明のほか、元總社小学校とその周辺における国府関連施設の検出を目的としてトレンチを設定して調査を行った。

その他、宮鍋神社の南において区画整理事業にともない実施された元總社新海跡群(99)の調査で掘込地業をもつ建物跡が検出されたため、その範囲確認の調査もあわせて実施した。

(1) 大溝(区画溝)の確認調査

1年次調査で検出された東へ10°傾く南北方向の大溝と、新海道跡群(58)で検出された東へ75°傾くほぼ東西方向の大溝が、新海城本丸付近で交差することが想定されたため、その状況確認のための調査を実施した。調査の結果、南北方向の大溝と一連のものと考えられる古代の大溝が検出されたが、大溝の交点については明確に確認できなかつた。また、南北方向の溝は、さらに南で検出されている古代の大溝と連続していることが判明した。

(2) 元總社小学校およびその周辺の調査

元總社小学校の校庭は、過去の調査で建物跡や溝跡が検出されていることから、引き続き調査を行い、これらの遺構の性格について考えていく必要である。元總社小学校西側についても、区画溝のほかに国府関連施設が存在する可能性が高いことから引き続き調査を行う必要がある。

古代の構造1条、建物跡1棟のほか住居敷地などが検出された。建物跡は中世の構造複雑のため全体像は不明であるが、検出された住穴から側柱の建物と推定される。また、住穴の土は層状で硬く固められていることから、壇地業の建物の可能性が考えられる。

元總社小学校周辺の調査では、小学校の西側で実施したところ、小学校の西約100m付近で東西方向の古代の大溝が検出された。その規模や形状から区画溝と考えられ、調査区内で構が終息していた。なお、施設の入口が想定できるため、門跡等の検出に努めたが、検出できなかった。

(3) 宮鍋神社付近(国府推定地C案周辺)の調査

新海道跡群(99)で検出された掘込地業をもつ建物跡の範囲確認調査では、掘込地業の西端を確認できたほか、掘込地業が布地業や純地業に分かれることも判明した。なお、同じ状況は新海道跡群(99)でも確認されている。

その他、国府推定地C案付近では、区画溝の確認調査を行った際に、神形の掘込地業をもつ柱跡跡が1棟発見されている。



28 トレンチ検出の神形の掘込地業をもつ建物跡

調査のまとめ

(1) 大溝(区画溝)の確認調査

今年度調査した南北方向の大溝は、規模と形態を変えながら南へ傾くことが判明した。さらに南の地点では他の大溝と交差することが考えられることから、性格解明のために引き続き大溝の調査を行う必要がある。

(2) 元總社小学校およびその西側周辺の調査

元總社小学校の校庭は、過去の調査で建物跡や溝跡が検出されていることから、引き続き調査を行い、これらの遺構の性格について考えていく必要である。元總社小学校西側についても、区画溝のほかに国府関連施設が存在する可能性が高いことから引き続き調査を行う必要がある。

(3) 宮鍋神社付近(国府推定地C案周辺)の調査

区画整理とともに調査も含めて、掘込地業をもつ建物2棟、掘立柱建物2棟、区画溝3条などの官衙関連遺構が多く検出された。今後、その他の建物の検出や、これら建物がどのような性格で、上野国府にどのように関連していくのか分析が必要である。

②元總社蒼海遺跡群

(85)・(88)～(90)・(96)～(98)
(26A182, 185～187, 191～193)



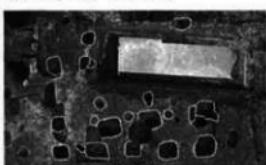
元總社蒼海遺跡群(97)全景



遺跡位置図

③元總社蒼海遺跡群

(91)・(95)・(99)・(102)
(26A188, 190, 195, 198)



(95) 標立柱建物跡



遺跡位置図

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市總社町総社 3107 他

調査期間 平成 26 年 5 月 20 日から

平成 26 年 11 月 13 日まで

担当者 小峰 鶴・渡辺 亮介

調査面積 1,935 m²

蒼海(85) 483 m² 蒼海(96) 47 m²

蒼海(88) 50 m² 蒼海(97) 927 m²

蒼海(89) 73 m² 蒼海(98) 286 m²

蒼海(90) 69 m²

調査経緯

平成 26 年 5 月 2 日付で、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営での発掘調査を実施することとなった。これを受け、5 月 20 日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果

(85)：住居跡 9 軒、溝跡 6 条などが検出された。住居跡は 10 世紀～11 世紀代の遺構が大半を占める。隣接する蒼海(97)でも同時期の住居跡が検出されており、この一帯が平安時代後期の集

落跡であったと思われる。

(88)：古代及中世の品跡が検出された。

(89)：竪穴状遺構 1 軒、溝跡 2 条が検出された。Y-2 号標跡は、蒼海城関連の堀跡と思われる。

(90)：竪穴状遺構 1 軒が検出された。

(97)：最大面積を持つ本遺跡では、住居跡 22 軒、構跡 1 条などが検出された。構跡は蒼海城関連の堀跡で比較的規模の大きい構である。住居跡については、隣接する蒼海(85)同様 10 世紀～11 世紀代が主体である。羽柴片、土釜片、酸化焰形成小型坏などが多く見つかっ



ている。

(98)：中世のピット(住穴)が 40 基、標立柱建物跡 2 棟、井戸跡 2 基などが検出された。特に 1-2 号井戸跡は規模の大きなものであった。

(96)では遺構が検出されなかった。

事業名 元總社蒼海土地区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 3114 2 他

調査期間 平成 26 年 5 月 23 日から

平成 27 年 1 月 23 日まで

担当者 福田 貴之・並木 史一

調査面積 1,467 m²

蒼海(91) 219 m² (26A188)

蒼海(95) 942 m² (26A190)

蒼海(99) 248 m² (26A195)

蒼海(91) 58 m² (26A198)

調査経緯

平成 26 年 5 月 2 日付で、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営での発掘調査を実施することとなった。これを受け 5 月 23 日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果

(91)：古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡 36 軒のほか古代の掘込地業跡が検出された。掘込地業は、総地業とその北側及び西側に布地業が存在する。総地業は、東側及び南側が調査地外へ延びているが、検出された部分で、東西 9 m 南北 12 m を超える。



かけたので竪穴住居跡が 7 軒検出され、うち 10 世紀代と考えられる 3 号住居から小金銅仏が出土した。

(95)：古墳時代および平安時代の竪穴住居跡 8 軒のほか、標立柱建物跡 2 棟と古代の大構 3 条が検出された。1 号標立柱建物は桁行・梁行ともに 5 m、3 × 2 間で真北より西に 19 度傾く。また、2 号標立柱建物は桁行 7.7 m、梁行 4.8 m で 4 × 3 間、同じく西に 13 度傾いている。古代の大構はこれらを仕切る区画構の可能性が考えられ、北側を区画する 2 号標立柱建物からは、「本」と墨書きされた須恵器碗が出土している。

(99)：古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡 36 軒のほか古代の掘込地業跡が検出された。掘込地業は、総地業とその北側及び西側に布地業が存在する。総地業は、東側及び南側が調査地外へ延びているが、検出された部分で、東西 9 m 南北 12 m を超える。

(102)：櫛を有する道路状遺構を伴うものや蒼海城の堀跡など、古代から中世にかけての構跡 3 条等が検出された。

- ④ 元総社蒼海遺跡群(72)～(80)・
(92)～(94) (26A171～172)
(26A1168～169) (26A173～177)



遺跡位置図

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市總社町總社 3051-13他
調査期間 平成26年9月19日から
平成27年3月27日まで
担当者 板垣宏・荻野博巳・瀧澤典雄
(スナガ環境測設株式会社)

調査面積 840 m²

調査の概要 平成26年8月11日付けで、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について前橋市の合意も得られ、市教育委員会の監理、指導のもと民間調査組織が発掘調査を実施することになった。平成26年9月19日付けで前橋市とスナガ環境測設株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 本遺跡からは、古墳時代～平安時代の住居跡63軒、堅穴状遺構1基、井戸3基、古代～中・近世の溝跡19条、土坑95基、中・近世の堀4条等が検出された。

本年度は発掘調査のみであり、整理作業と遺物の洗浄が進むことで、詳細が明らかになると期待される。



調査区全景 (元総社蒼海遺跡群 (78))



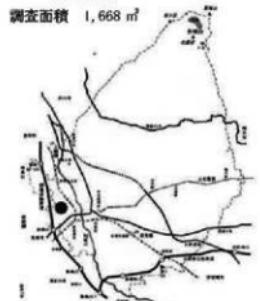
調査区全景 (元総社蒼海遺跡群 (79))



15号住居跡 (元総社蒼海遺跡群 (79))

- ⑤ 元総社蒼海遺跡群(81)～(84)
(26A178～181)

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市總社町總社 3113-1
他
調査期間 平成26年9月1日から
平成27年3月27日まで
担当者 権田友寿 (スナガ環境測設
株式会社)



遺跡位置図

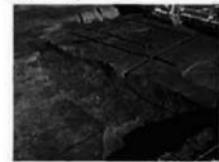


調査区全景 (元総社蒼海遺跡群 (81))

調査の概要 平成26年8月1日付けで、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について前橋市の合意も得られ、市教育委員会の監理、指導のもと民間調査組織が発掘調査を実施することになり、平成26年9月1日付けで前橋市とスナガ環境測設

契約を締結し発掘調査を開始した。調査の成果 本遺跡からは、古墳時代～奈良・平安時代の住居跡40軒、古墳時代の方形周溝墓1基、奈良・平安時代の堅穴状遺構8基、溝跡1条、土坑21基、中近世の溝跡3条、中柱等が検出されている。



方形周溝墓 (元総社蒼海遺跡群 (81))



住居跡 (元総社蒼海遺跡群 (84))

⑥ 元總社蒼海遺跡群(100・101)
(26A196・197)



元總社蒼海遺跡群(100)全景



遺跡位置図

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市總社町總社 3589 他
調査期間 平成 26 年 12 月 11 日から
平成 27 年 3 月 27 日まで
担当者 南田法正 (有限会社毛野考古
古学研究所)

調査面積 524 m²
調査の経緯 平成 26 年 11 月 13 日付け
で、前橋都市計画事業元總社蒼海土地
区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調
査依頼が前橋市より提出された。市教育
委員会では、直営による発掘調査が
困難であるため、「群馬県内の記録保
存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査
における民間調査組織導入事務取扱要
綱」に則り、民間調査組織に業務を委
託するよう前橋市に回答した。民間調
査組織への業務委託について前橋市の
合意も得られ、市教育委員会の監理、
指導のもと民間調査組織が発掘調査を
実施することになった。平成 26 年 12
月 11 日付けで前橋市と有限会社毛野考
古学研究所との間で発掘調査業務委託
契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果 元總社蒼海遺跡群(100)

からは、古墳時代後期～平安時代の堅
穴住居跡が 7 軒、掘立柱建物跡 6 棟等
が検出された。また、方形周溝墓 1 基も
検出された。

元總社蒼海遺跡群(101)からは、古墳時
代後期～平安時代の堅穴住居跡が 12 軒、
掘立柱建物跡 5 棟等が検出された。また、
20 歳代後半～30 歳代前半と推測される
女性を埋葬した墓坑も検出され、内面
に「寸」の墨書きがある須恵器碗が検出
している。

今回、年度の終盤での調査依頼であ
ったため、現地での発掘調査のみであ
った。整理作業は来年度予定しており、
整理作業が進むと、より詳細が明らかに
なるものと期待される。



元總社蒼海遺跡群(101)全景

⑦ 元總社蒼海遺跡群(103) (26A200)



元總社蒼海遺跡群(103)全景



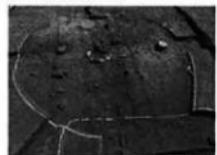
遺跡位置図

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市元總社町 1693-1 他
調査期間 平成 27 年 3 月 2 日から
平成 27 年 4 月 22 日まで
担当者 笠原仁史 (有限会社歴史考
究室ほら)

調査面積 470 m²
調査の経緯 平成 27 年 2 月 17 日付
で、前橋都市計画事業元總社蒼海土地
区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調
査依頼が前橋市より提出された。市教育
委員会では、直営による発掘調査が
困難であるため、「群馬県内の記録保
存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査
における民間調査組織導入事務取扱要
綱」に則り、民間調査組織に業務を委
託するよう前橋市に回答した。民間調
査組織への業務委託について前橋市の
合意も得られ、市教育委員会の監理、
指導のもと民間調査組織が発掘調査を
実施することになった。平成 27 年 3 月
2 日付けで前橋市と有限会社毛野考
古学研究所との間で発掘調査業務委託契
約を締結し、発掘調査を開始した。

中期の堅穴住居跡 4 軒・土坑 1 基、
古代の堅穴住居跡が 17 軒・土坑 3 基等
が検出された。

今回、年度の終盤での調査依頼であ
ったため、現地での発掘調査のみであ
った。整理作業は来年度予定しており、
整理作業が進むと、詳細が明らかに
なるものと期待される。



検出された銅文時代の住居跡



検出された古代の住居跡

③ 朝倉工業団地遺跡群No7 (26086)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 工場増築工事

所在地 前橋市下佐島町1001-2

調査期間 平成25年12月1日から

平成25年12月17日まで

担当者 前田和昭（技研コンサル株式会社）

調査面積 370 m²

調査の経緯 朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成26年9月26日、事業者より埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあった。その後、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、技研コンサル株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本調査区からは、As-B直下の水田面・畦畔・中世以降の溝跡、

が検出された。As-B直下の平安時代末期の水田跡は北から南に向かって緩やかに傾斜しており、標高は東85.12m、南東85.03mで高低差0.9mほどである。南北畦畔の走向はほぼ南北方向を指向している。また、本水田形成以前で弘仁9年（818年）の洪水層に推定できる洪水層に被覆された溝跡1条を検出している。

中世以降の溝跡は、溝跡2条が検出されており、そのうち1条の土壌上層にAs-Bを混入する暗灰黄色土の堆積が見られ、As-Bの一時堆積層上面のAs-B混土層と同一であるところから、この溝の形成年代を考察する上で、意味深いものといえる。



水田跡 (As-B下)・溝跡

④ 南部拠点地区遺跡群No10 (25G84)

事業名 土地区画整理事業

所在地 前橋市鶴光路町113-2 他

調査期間 平成26年3月19日から

平成26年9月29日まで

担当者 井上大、有山徑世、山本千春（有限会社野毛考古学研究所）

調査面積 9,850 m²



遺跡位置図

調査の経緯 南部拠点地区遺跡群は平成20年度から区画整理事業に伴う発掘

調査が9次に亘って行なわれ、古墳時代や平安時代の水田跡等が調査されている。平成25年6月5日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年7月から8月にかけて試掘調査を実施し、平安時代の水田跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、道路や調整池について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社野毛考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡では、古墳時代前期集落および平安時代末期の水田跡、が確認された。発掘調査では古墳時代前期の外周溝を持つ住居跡が2軒検出された。南北大畦畔2条、東西大畦畔3条、確認された南北大畦畔のうち1条

は周辺の条里区画の基準とは合致せず。坪界を構成しない内部の区画割りのための畦畔であったのか、条里施行の時間的な差による区画基準の変更なのか今後検討が必要となる。この他に、平安時代末から現代にかけての溝跡や土坑、ピットなどが検出された。

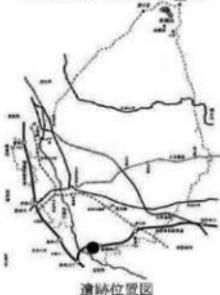


調査区全

⑩ 南部拠点地区遺跡群No.11 (25G85)



調査区全景 (As-B下水田面)



遺跡位置図

事業名 土地区画整理事業

所在地 前橋市亀里町 953-2 他

調査期間 平成 26 年 3 月 10 日から

平成 26 年 9 月 12 日まで

担当者 永井智教(山下工業株式会社)

調査面積 8,400 m²

調査の経緯 南部拠点地区遺跡群は平成 20 年度から区画整理事業に伴う発掘調査が次に亘って行なわれ、古墳時代や平安時代の水田跡等が調査されている。平成 25 年 6 月 5 日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年 7 月から 8 月にかけて試掘調査を実施し、平安時代の水田跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、道路や調整池について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事業取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、山下工業株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは古墳時代前期の外周構を持つ住居跡 9 軒、井戸跡 3 基、溝跡 7 条、土坑 5 基、古墳時代後期の小区画水田跡 1 面、土坑 4 基、

跡 3 条、平安時代末の水田 1 面、道路跡 7 奈良・平安時代の溜井状土坑 1 基、溝渠、その他中世以降の構築・段切り条構造、掘立柱建物等が確認された。

古墳時代前期の遺構群は、当該期の集落を構成する要素群であり、南部拠点地区遺跡群 No.10 と合わせて考察すると、両遺跡にまたがって南流する谷地の両岸・微高地に上水田經營のために營まれた集落とのそういうができる。



古墳時代前期の集落（東から）



Hira-PA 下の水田跡

⑪ 五代深堀 I 遺跡 No. 2 (26C25)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 工業団地造成事業

所在地 前橋市五代町 1081-1

調査期間 平成 26 年 7 月 7 日から

平成 27 年 3 月 10 日まで

担当者 柴田洋孝・小此木真理（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 2,290 m²

調査の経緯 平成 26 年 5 月、産業政策課から同地を工業団地として売却を計画している旨の連絡があり、遺跡の取扱いについて協議を開始する。同年 6 月 2 日～5 日に試掘調査を実施し、縄文時代の住居跡・奈良・平安時代の住居跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を行なったが、すでに開発計画が進行していたため、切土部分について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事業取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指

導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは縄文時代中期の堅穴住居跡 5 軒、土坑 124 基、ピット 34 基、平安時代の堅穴住居跡 6 軒、掘立柱建物跡 1 棟、道路状構造 2 条、土坑 99 基、溝渠 6 条、ピット 34 基が確認されている。縄文時代の堅穴住居跡は環状を呈する広がりをみせ、出土遺物は中期中葉に帰属する。奈良・平安時代の堅穴住居跡は 8 世紀後半から 10 世紀初頭に帰属する。その他 9 世紀中ごろに帰属する般若造構も 1 基確認されている。出土した遺物としては青銅製の丸鉗、「高」・「風」・「石」と書かれた墨書き土器等の出土が特筆される。



縄文時代出土土器（集合写真）

⑫ 川曲地蔵前遺跡No.3 (26A194)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 店舗新築工事
所在地 前橋市川曲町356-1他
調査期間 平成25年8月5日から
平成25年9月20日まで
担当者 永井哲教（山下工業株式会社）

調査面積 5,329 m²

調査の経緯 平成26年2月18日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年4月に試掘調査を実施し、平安時代の水田跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、店舗箇所等について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、山下工業株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは、奈良・平安時代の条里制に基づく大畦畔および水田跡、また同時期に機能していた条

里地割に規制された大溝（「川曲大溝」）が検出された。大溝は広瀬川から取水されたと想定され、前橋台地に展開する古代の人工的な水利網のひとつである。この大溝からは、「刀物」墨書き器・刀子・馬骨等も出土しており、開墾に際してなんらかの祭祀が儀式されたことが想定され、同地の開発に物部氏が大きく寄与した可能性も想起される。

また、平安時代末の大畦畔も奈良・平安時代とほぼ同一箇所から検出され、200年ほどの時間差を超えて、条里制に基づいた水田の展開が判明した。

さらには、中世の段切り状造構（水田跡）も条里制水田に沿った地割り構に画されており、長期にわたって条里制に基づいた水田経営が行われていたことが窺える。



川曲大溝上層状況

⑬ 六供遺跡群No.8 (26B85)



調査区全景 (A区: 東から)



事業名 土地区画整理事業
所在地 前橋市六供町
調査期間 平成25年8月4日から
平成25年8月29日まで
担当者 前田和昭（技研コンサル株式会社）

調査面積 460 m²

調査の経緯 六供遺跡群は平成17年度から区画整理事業に伴う発掘調査が7次に亘って行なわれ、古墳時代から平安時代の集落跡、古墳時代前期および平安時代末期の水田跡等が調査されている。平成26年3月11日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年4月23日～25日にかけて試掘調査を実施し、平安時代の住居跡・溝跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務

取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、技研コンサル株式会社が発掘調査を実施することになった。調査の成果 本遺跡からは古墳時代の住居跡1軒、近世以降の溝跡6条、井戸跡5基等が確認された。特に、B区I-3号井戸とした遺構は、9×4.2mを囲む方形を呈する池状の遺構で、底部に直径1.28m、深さ0.72mの円形の穿孔部を、南東コーナーの中段には水口状の窪みを有する。この穿孔部は、湧水面である砂層まで達しており、「溜井」としての機能を有する。

出土遺物としては、東毛地区に多くの出土事例を持つ、頁岩製の石製模造品の川土が特筆される。



調査区全景 (B区: 西から)

⑩ 総社町向畠遺跡 No. 1 (26A199)



事業名 宅地造成

所在地 前橋市総社町植野 594, 597

調査期間 平成 27 年 3 月 9 日から

平成 27 年 3 月 27 日まで

担当者 土井道昭 (有限会社毛野考古学研究所)

調査面積 150 m²

調査の経緯 平成 26 年 11 月 21 日、開発人から同地における宅地造成に係る試掘調査依頼がある。同年 12 月 15 日～17 日に新設道路部分について試掘調査を実施し、古墳時代の住居跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を行なったが、すでに開発計画が進行していたため、発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事業取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは古墳時代後期の堅穴住居跡 1 軒、土坑 10 基、井戸跡 2 基、溝跡 3 条、堅穴状遺構 1 基等を調査した。出土遺物は古墳時代前期から後期の土師器 (壺・高壺・甕・壺)、奈良・平安時代の須恵器 (壺・碗・甕・壺)、青磁、陶器等が出土している。

発掘調査報告書の刊行が来年度となっており、遺物の整理等が進捗するとより、本遺跡の詳細が判明するものと思われる。



堅穴住居跡・遺物出土状態

2 市内遺跡発掘調査事業

(1) 事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的大きな土木工事について、開発者と協議のうえ、着工前に試掘・確認調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

(2) 事業の内容

①調査方法

工事予定地にトレーナーを設定し、重機による掘削と入手による精査を行い、埋蔵文化財の有無や埋蔵文化財包蔵地の範囲内容の確認を行った。調査面積は、全体面積の1割程度を基準とした。

②記録作成

トレーナー位置及び遺構分布が分かるトレーナー配図、深掘り箇所の土層断面図を作成し、3.5 mmカラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い記録資料とした。

(3) 調査結果

本年度は、別表の「平成26年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を65件実施した。このうち、35件で埋蔵文化財を検出した。

①検出した遺構の時代

縄文時代から中世にかけての遺構を検出した。

②検出した遺構の種類

住居跡、水田跡、土坑跡、溝跡等

③発掘調査を行った遺構

ア 六供遺跡群No.8（前橋市0282遺跡）
古墳時代の住居跡

イ 五代深堀I遺跡No.2（前橋市0055遺跡）
縄文時代の住居跡

ウ 川曲地蔵前遺跡No.3（前橋市0333遺跡）
平安時代の水田跡

エ 総社向畠遺跡No.1（前橋市0115遺跡）
古墳時代の住居跡

オ 朝倉・後閑水田遺跡（前橋市0946遺跡）
平安時代の水田跡

3 遺跡台帳整備事業

(1) 前橋市遺跡地図の更新

平成15年度から開始した遺跡地図作成事業は、平成24年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行し、平成25年度以降からも開発に伴う発掘による遺跡分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(1) 遺跡GISの更新

平成20年度から開始した遺跡GIS事業は平成26年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡GISへ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報もGISに搭載し、内容の充実を図っていく。

4 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレット「い・せ・きワールド in 前橋」の作成

平成26年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、A3版の両面印刷（両面カラー）の「い・せ・きワールド in 前橋 平成26年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。

両面とも写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたのか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。

7,000部作成し、平成27年度初めに市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、文化財の普及を進めた。



「い・せ・きワールド in 前橋 2015」表面



「い・せ・きワールド in 前橋 2015」裏面

(2) 出土資料の活用（貸出展示）

・山梨県立博物館（山梨県）

白藤古墳群 P-6 号墳出土埴輪馬、V-4 墳出土埴輪馬、月田地藏塚古墳群出土埴輪 貴人
・岩宿博物館（みどり市）

堀越甲真木 B 遺跡出土石器、鳥取福蔵寺 II 遺跡山上石器、安通・洞 No. 2 遺跡出土遺跡出土石器、市内出土有舌尖頭器

・公益財団法人相川考古館（伊勢崎市）

山王金冠塚古墳出土青銅冠複製品

・かみつけの博物館（高崎市）

土製小像のついた円筒埴輪、猪形埴輪、豚骨、馬齒、土師器、墨画のある土師器、土師器の複製品、古語拾遺に基づく祭祀用具復原品

(3) 貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

展示や貸出に頻繁に利用する遺物・写真などの資料を利用しやすくするため遺物と報告書の実測の写しと一緒に管理するなどの整備を行った。

(4) 展示成果

元總社公民館 芳賀公民館 大室公園

サンデンファシリティ けやきウォーク 前橋
①元總社公民館

元總社地区的土地区画整理に伴う発掘調査成果である壺や高盤などの出土遺物、上野園府に関連する人形や墨書き土器などの複製品、写真などの展示を行った。

②芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの解説パネル、発掘調査写真などの展示を行った。

③大室公園

大室古墳群公開・普及イベント 2014 「ワクワク☆大室古墳群！」において、前二子古墳石室復元市民プロジェクトで 2 期 6 カ年にわたって製作した作品の展示を行った。

④サンデンファシリティ

見学者体験教室「森の教室」に縄文土器や石器、土師器、須恵器などの遺物、発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子などを撮った写真パネルを展示した。

⑤けやきウォーク前橋

平成 23 年度の発掘調査で出土した古銭や丸判（ベルトの飾り）などの出土遺物、市民プロジェクト作成の金冠塚古墳出土の金銅製冠や大室古墳群関連の出土品の複製品の展示を行った。



(5) 発掘調査資料の整理作業

①堀越甲真木 B 地点遺跡の旧石器整理作業平成 14 年度に遊技場駐車場造成に伴い発掘調査を実施した。そこで開東ローラム層 AT 下から 1, 699 点にも上る旧石器が発見され、本市の歴史を考える上で極めて貴重な資料であるが、未整理となっていた。

平成 25 年度に器種認定、重さ、石材などの属性についての台帳作成は済んでいたため、平成 26 年度は石器接合作業と実測作業、分布図作成を行なった。

石器の器種と石材の内訳は別表のとおりである。これらうちトゥールの実測作業は終了した。

接合資料は 49 点（黒色安山岩 28 点、黒色頁岩 12 点、粗粒安山岩 1 点、黒曜石 8 点）を数え、このうち実測は半分程度終了した。

分布図作成は器種別分布図、石材別分布図の作成中である。

平成 27 年度に、実測図トレース、分布図の完成、文章作成、平成 28 年度に写真撮影を行い、市内印刷機を用いて刊行を計画している。

Tab. 1 堀越甲真木B地点遺跡石材一覧

器種名	点数合計	重量合計(g)
黒色安山岩	783	15,021
黒耀石	688	1,728
黒色頁岩	174	5,445
粗粒安山岩	19	9,384
硬質頁岩	8	111
チャート	5	74
ホルンフェルス	3	67
安山岩	2	30
変質安山岩	1	4
砂岩	1	1,400
イモ石	2	2
頁岩	1	1
不明	6	7
点数合計	1,693	
重量合計(g)		33,272

Tab. 2 堀越甲真木B地点遺跡器種一覧

器種名	点数合計
ナイフ形石器	26
削器	45
彫器	1
使用痕のある剥片	28
彫器	1
楔形石器	1
揉鉢器	2
敲石	8
磨石	1
加工痕のある石刃	2
加工痕のある剥片	8
石刃	41
剥片	1,394
碎片	81
石核	32
礫	20
削片	1
不明	1
点数合計	1,693

5 文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一斉送付

平成26年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があった。この寄贈に対する返礼と前橋市の文化財保護行政の周知のため、3月に『年報第44集 平成25年度文化財調査報告書』他19冊を206ヶ所に送付した。

(2) 写真資料・図面資料のデジタル化に 関すること

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。平成26年度は主に市立図書館で保管されている前橋市市史編さん資料(35mm 36枚取、約419本)に関するデジタル化を行なった。

6 上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成23年度から「上野国府等範囲内内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行なながら事業を実施してきた。

本年度は、5か年計画の4年目にあたる。元総社小学校西側周辺を初めて調査し、古代の大溝や円面鏡の破片などを確認した。国庁推定地C案付近では、布堀り地業建物跡、布堀り地業と総堀り地業を併せ持つ建物跡など官衙関連遺構を検出し、官衙との強い結びつきを感じさせる遺物や今までの調査では元総社小学校校庭からしか出土していない特徴的な遺物も見られた。

官衙関連遺構を検出したことから、現地観察を行い遺構の性格付けや発掘調査の方針を決定するため、以下のとおり3回の委員会を開催した。

(2) 第20回上野国府等調査委員会

開催日 平成26年8月12日(火)

開催場所 元総社公民館、発掘現場

《現地観察》

・推定上野国府の布堀り地業建物跡、壺堀り地業建物跡、古代の溝

・元総社蒼海遺跡群の掘立柱建物跡、古代の大溝

《協議内容》

①視察結果の検討

②今年度の上野国府の発掘調査について 《主な意見》

・視察した布掘り地業建物跡について、今得られている情報だけではどのような建物か推測できないので、もう一度層序的な関係を精査し、全体として整合性を持たせて遺構認定したほうが良い。

・元総社小学校校庭について、方形の区画溝に囲まれた居館群があつて、それらの中に群馬大学が検出した掘立柱建物があるといいうイメージを持って調査する必要がある。

・視察した古代の大溝について、溝と溝の交点やその先の溝の延長部分は注意して調査する必要がある。

・「上野国交替実録帳」によると、長徳3年（997年）の正月11日に国府で大規模な火災の記録がある。火災状況が検出されれば、遺物、遺構と併せて詳細な特定が出来る。

(3) 第21回上野国府等調査委員会

開催日 平成26年11月20日（木）
開催場所 文化財保護課、発掘現場

《現地視察》

・元総社蒼海遺跡群の布掘り地業と総掘り地業を併せ持つ建物跡、古代の溝
・推定上野国府の布掘り地業建物跡



元総社蒼海遺跡群の現地視察

《協議内容》

①視察結果の検討

②上野国府29・31トレンチの調査結果 について

《主な意見》

・視察した布掘り地業と総掘り地業を併せ持つ建物跡について、布掘り地業の南北幅は想定できても、東西はまだ確定できない

という感想を持った。もし、総掘り地業の範囲を超えて布掘り地業が東側へ伸びるとすれば、想定している重複関係について見直す必要があり、それを念頭に再確認してほしい。

・国府門連造構の方向軸について、正方位をとる遺構と、10度から13度くらい西に振れる遺構の2つのグループに分けられる。この2つのグループの時期的な差について検討しながら調査を進めてほしい。

(4) 第22回上野国府等調査委員会

開催日 平成27年2月24日（火）
開催場所 文化財保護課

《報告》

平成26年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果

《協議内容》

①平成26年度上野国府等範囲内容確認調査の成果

②平成27年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画

《主な意見》

・大溝が検出された場合、溝の底面が見られるときに、どういう層序を振り込んで底面に至っているのかを考えていく必要がある。場所によっては、今見えている地区的状況と実際の旧地形はかなり違う気がする。溝の形状で関連を想定していく、掘っていく方法が一番良い。

・上野国府33・34トレンチの構造物について、版築や布掘り地業という点を踏まえて、建築史の専門家に対して、どのような一体の建物が考えられるか、一度意見を聞くほうが良い。

・平成27年度が調査の最終年度になることにについて、国府推定地4案の可能性を挙たわけであるから、現段階の調査結果から、それぞれどういう場所として評価できるかを整理しておく必要がある。



協議風景

あとがき

平成 26 年度に文化財保護課が実施した総ての事業について、その概要を報告することができました。これらの事業を遂行するに当たり、多くの市民の皆さんのご理解とご協力、ご助言を賜りました。ここに、記して感謝申し上げます。

今後も、前橋市の文化財保護行政の推進、発展のため引き続き諸事業を、積極的に展開していきたいと考えております。引き続きご支援、ご指導をお願い申し上げます。

平成 27 年 10 月 30 日

文化財保護課長 小島 純一

平成 26 年度
前橋市文化財調査委員会

井上 唯雄
梅澤 重昭
岡田 昭二
片山 漢秋
村田 敬一

平成 26 年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	小島 純一
文化財保護課専門員	前原 豊
文化財保護係	
文化財保護係長	岩瀬 孝弘
副主幹	登山 伸一
主査	細野 泰宏
主任	江黒 啓一
"	小沼 安美
"	宵沢 雄一
"	小川 卓也
"	下田 大介

埋蔵文化財係

埋蔵文化財係長	梅澤 克典
副主幹	倉地 啓仁
主査	福島 浩樹
主任	藤坂 和延
"	並木 史人
"	小峰 篤
"	渡辺 充介
"	福田 實之
"	阿久澤智和
"	寺内 勝彦

